



調布市公立学校 PTA 連合会創立 70 周年記念事業

# 令和 7 年度 教育懇談会

コミュニティ・スクールと PTA

調布市公立学校 PTA 連合会

令和 7 年 12 月 10 日

くすのきホール



# 令和 7 年度 教育懇談会

## コミュニティ・スクールと P T A

- 14 : 00 開会宣言  
・ 調布市立第七中学校 山田 勝 校長先生
- 14 : 02 会長挨拶  
・ 調布市立公立学校 PTA 連合会 会長 川端 宏志
- 14 : 05 来賓挨拶  
・ 調布市長 長友 貴樹 様  
・ 調布市教育長 栗原 健 様
- 14 : 15 趣旨説明  
・ 司会 木村 はる奈
- 14 : 20~15 : 00 講演 1  
コミュニティ・スクールとは何か  
～「学校と地域の連携・協働」を本物にするために～  
・ 講師 四柳 千夏子 氏
- 15 : 00~15 : 10 休憩
- 15 : 10~15 : 50 講演 2  
新しい豊かさを生み出す地域の力～子どもたちの“今”から考える～  
・ 講師 西牧 たかね 氏
- 15 : 50~16 : 10 リレートーク  
・ 箱崎 高之 (深大寺小校長)  
・ 清水 美千代 (上ノ原小学校運営協議会)  
・ 能登 伸一 (若葉台小学校 PTA 会長)  
・ 藤崎 実枝 (八中 P T A 会長)  
・ 遠藤 晃弘 (神代中学校保護者コーディネーター)
- 16 : 10 閉会宣言  
・ 教育懇談会委員長 菊池 兼輔

# コミュニティ・スクール とは何か

～保護者だからこそ考えたい  
「学校と地域の連携・協働」を本物にするために～



学びの輪、  
地域の和。  
未来へ繋ぐ

文部科学省CSマイスター  
三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員  
四柳 千夏子

## プロフィール



四柳 千夏子  
(よつやなぎ ちかこ)

文部科学省CSマイスター

三鷹市  
統括スクール・コミュニティ  
推進員

ひとまちみらい研究所

P T A	:	平成15, 16年	三鷹市立第七小学校PTAにて代表
		20, 21年	三鷹市立第四中学校PTAにて会長
		16, 20, 21年	三鷹市公立学校PTA連合会副会長
放課後子ども教室 (三鷹市地域子どもクラブ)	:	平成16～18年	七小あそびバナナ代表兼クラブコーディネーター
		19～25年	地域コーディネーター
		(現職)	七小あそびバナナ 代表
地域活動	:	(現職)	青少年対策第七地区委員会会長
		//	三鷹市青少年委員協議会会長
		//	NPO法人三鷹市民協働ネットワーク副代表理事
		//	まちラボみたか副代表
地域×学校	:	平成21, 22年	三鷹中央学園CS委員会副会長 (支援部)
		23, 24, 25年	同 会長
		23～令和4年	一般社団法人みたかSCサポートネット代表
		25年～ (現職)	文部科学省CSマイスター
		令和元年～ (現職)	三鷹市統括スクール・コミュニティ推進員
		令和6年～ (現職)	東京都CSアドバイザー

### 書籍紹介

- 「学校と社会をつなぐ～これからの人づくり・学校づくり・地域づくり～」 (学事出版)
- 「みんなで創ろう！コミュニティ・スクール」 (悠光堂)
- 「PTAでもPTAでなくてもいいんだけど、保護者と学校がこれから何をしたいか考えた」 (教育開発研究所)



## 本日お伝えしたいこと

---

- ・ コミュニティ・スクール（学校運営協議会）について
- ・ 学校との「連携・協働」のあり方
- ・ 「PTA」と「保護者」のこれから

あなたの学校を本物のコミュニティ・スクールに

コミュニティ・スクール  
って何だろう？

・・・のその前に

## 「連携・協働」って何だろう (AIに聞いてみました)

**連携**：共通の目的や課題解決のために、複数の人や組織が連絡を取り合い、協力して物事を進めることを指します。単に力を合わせる「協力」よりも、情報共有やノウハウ交換といった組織的で継続的な関係性を意味します

**協働**：複数の主体が共通の目的を達成するために、対等な立場で協力し、それぞれの資源や特性を生かして共に働くことを指します。特に、行政と市民、NPOなどが協力して地域の課題解決やまちづくりを進める文脈で使われることが多い言葉です

## コミュニティ・スクール とは

学校運営協議会を設置している学校のこと

+

地域学校協働活動が推進されている学校



## 学校運営協議会の役割

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5 R1.4改正

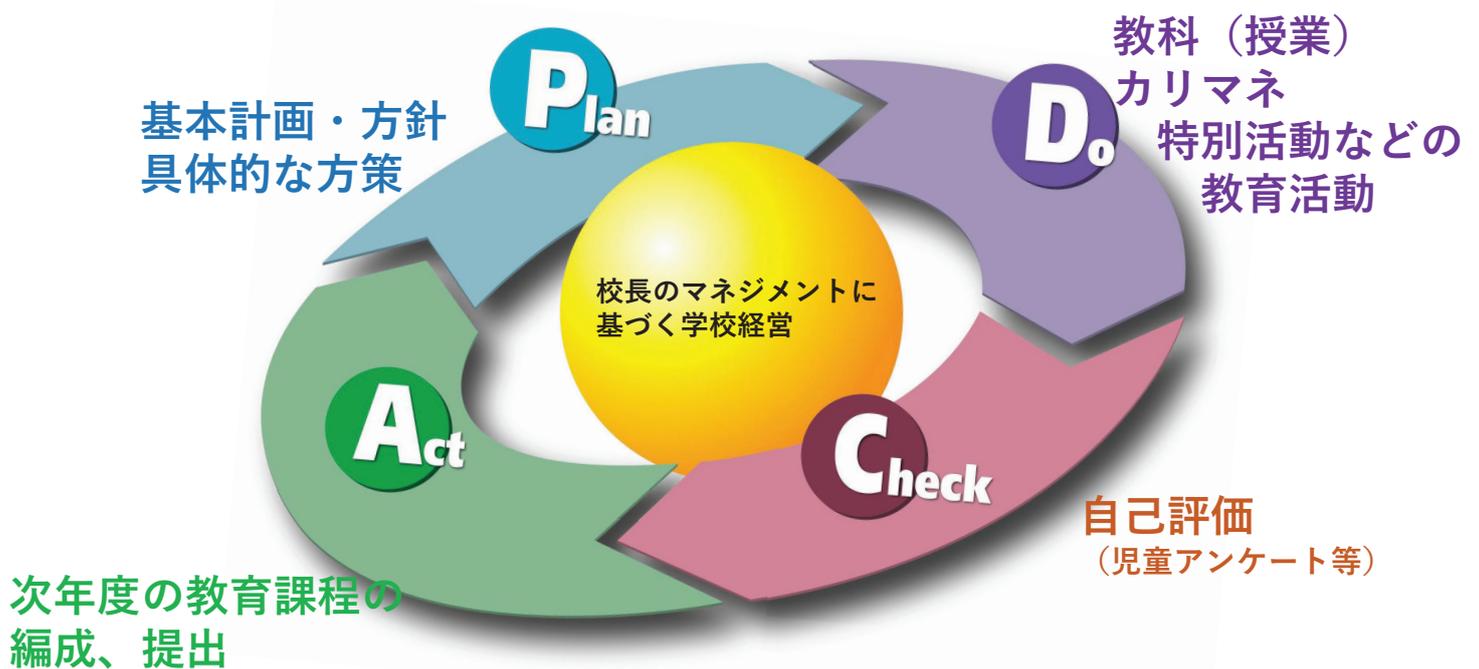
校長が作成する学校運営の**基本方針の承認**をしなければならない。

学校運営について、教育委員会または校長に**意見を述べる**ことができる。

教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に**意見を述べる**ことができる。

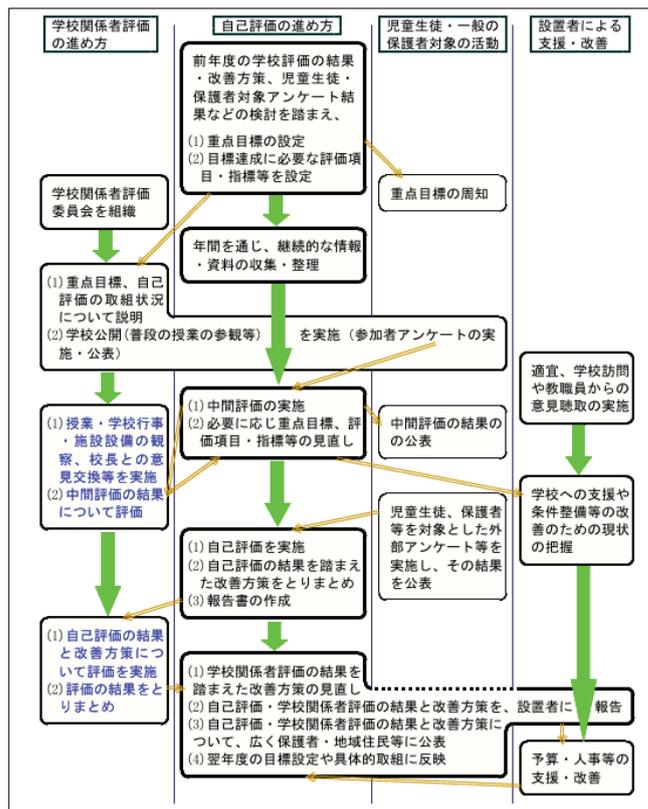
無断転載禁止

## 学校のマネジメントサイクル



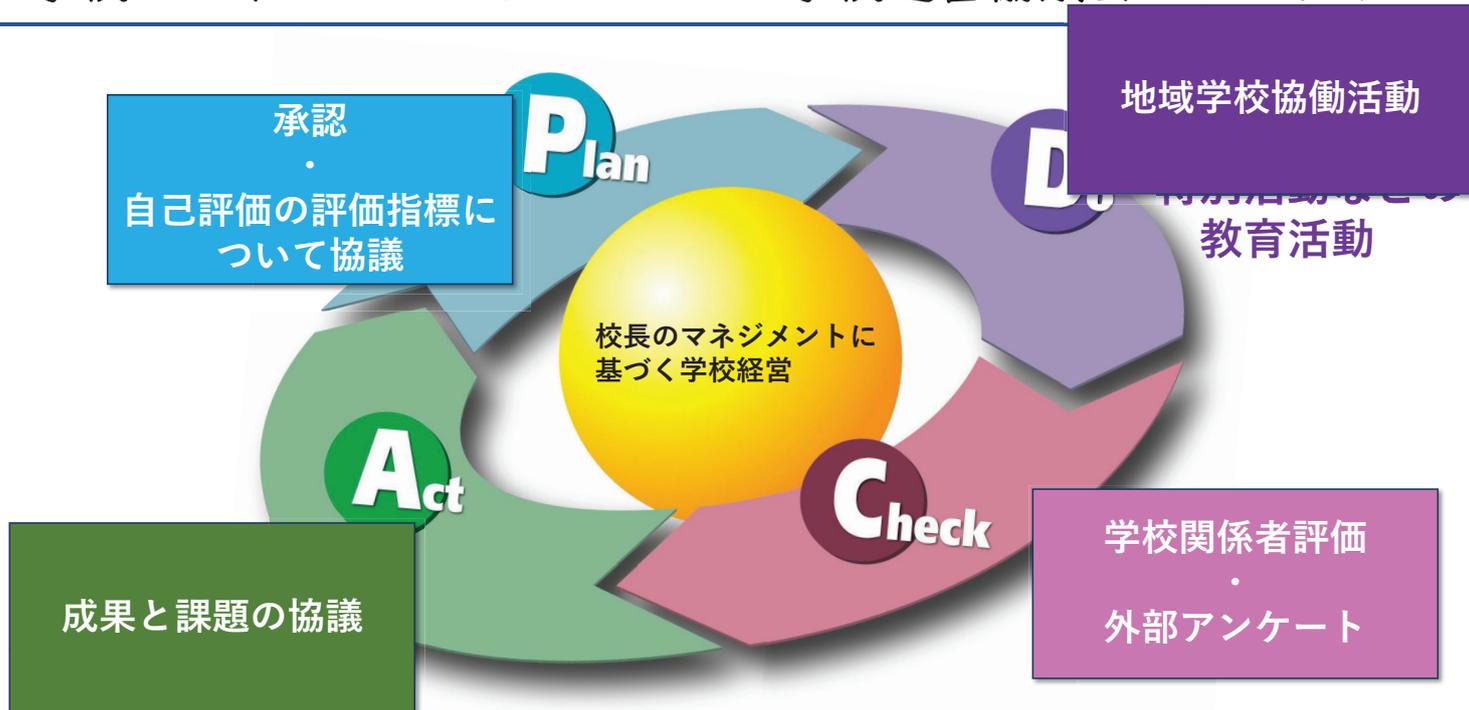
**自己評価・学校関係者評価の進め方のイメージ例**

〔注〕「設置者による支援・改善」の欄を除き、特に明示がない場合には、学校がそれぞれの活動の主体になる。  
青字で記述した活動は、学校関係者評価委員会が活動の主体になる。



文部科学省 学校評価ガイドライン（平成28年）改訂  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2019/01/30/1323515\\_021.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/01/30/1323515_021.pdf)

**学校のマネジメントサイクルへの学校運営協議会のかかわり**



私たちが校長から「どんな目標をもち、どんな子どもたちを育てたいのか」など学校をビジョンを聴き、協議し、責任をもって「Let's」の承認をします

学校運営協議会だからこそ、多様な意見を集められます。学校の課題や子どもたちの困り感など学校の改善につながる未来志向の協議は、私たちもワクワクします！子どもたちを真ん中に、学校と一緒に子どもたちを育てている感覚があります



学校や子どもたちにかかわるのは楽しい！子どもたちからエネルギーもらえるね。私たちももっと学ばなきゃ！

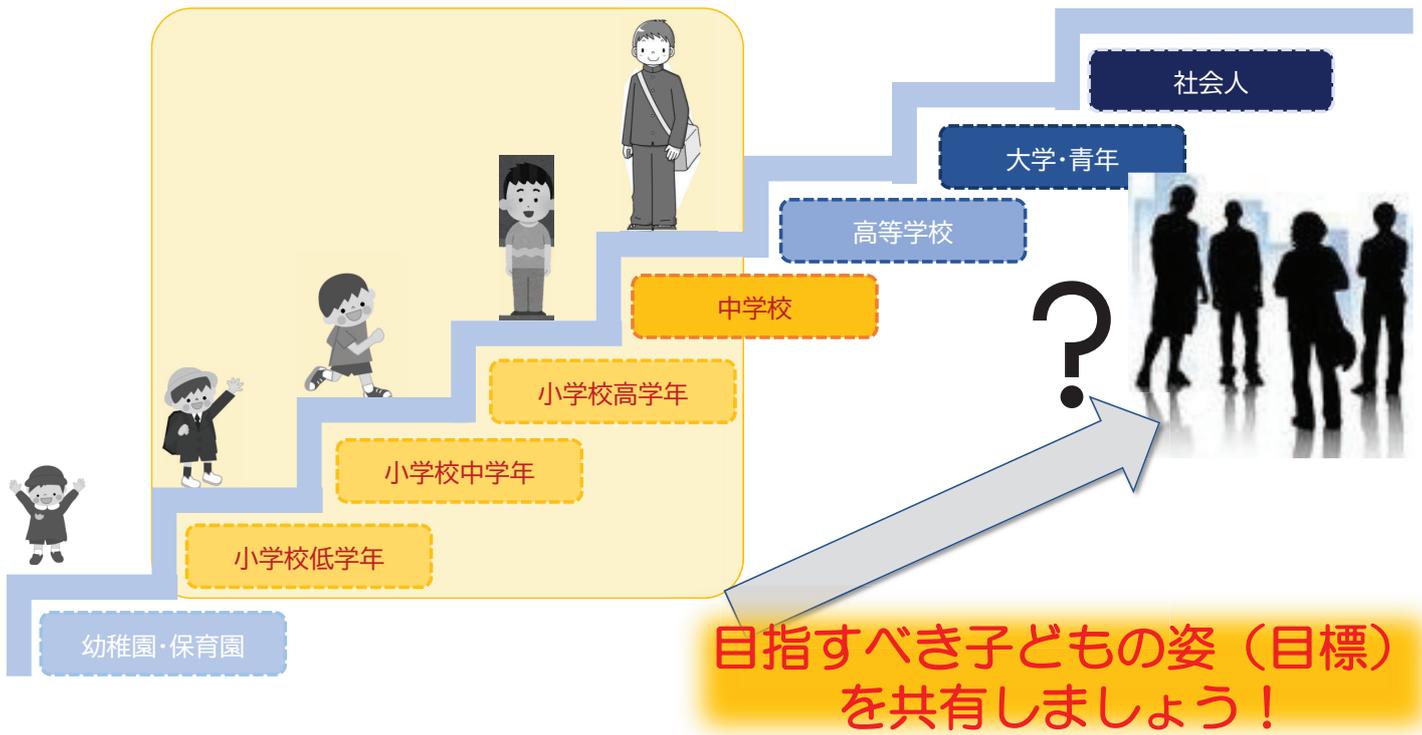
先生たちの自己評価、子どもたちへのアンケート、保護者や地域の声などを丁寧に読み解きながら、協議します。時には熟議も。ここを丁寧に、しっかりと！！

# コミュニティ・スクール って何だろう？



## 学校運営協議会を 機能させることが大切

「目標やビジョンを共有する」とは？ ～まず初めの一步としての協議～



パワーアップアクションプラン  
三鷹中央学園

## 中央学園スマイルアクション!

2023年10月17日(火)更新版

【共通テーマ】	子どもの取組	学校での取組	家庭での取組	地域での取組
<b>【学習】</b>	知りたいことは自分で調べよう	知りたい! やりたい! を引き出そう	集中して勉強できる環境を子どもといっしょにつくろう	学習ボランティアや地域のボランティアなどに参加しよう
<b>【本に親しむ】</b>	いろいろなジャンルの本にふれてみよう	いろいろなジャンルの本にふれる機会を増やそう	家族で本について語り合おう	
<b>【チャレンジ精神】</b>	やりたいことにチャレンジしてみよう	チャレンジができる学級をつくろう	子どもの相談に乗りチャレンジを見守ろう	(学園は子どもの心身の健康を育むため地域のクラブ活動などの連携を日進す)
<b>【生活習慣】</b>	めあてをもった生活リズムで暮らそう	めあてをもった生活リズムの大切さを伝えよう	子どもに合った生活リズムのめあてをいっしょに考えよう	
<b>【自己肯定感】(自分を好きになる)</b>	自分も友だちもよいところを見つけ伝え合おう	おたがいのよさを認めあえる学級をつくろう	子どものよいところに注目しよう	子どもたちのよい言動を見つけたら学園に伝えよう
<b>【感謝】</b>	感謝の気持ちを自分から伝えよう	感謝の気持ちを伝え合える学級をつくろう	感謝の気持ちを率先して伝えよう	
<b>【あいさつ】</b>	あいさつは自分からしよう	あいさつができる学級をつくろう	率先してあいさつをしよう	
<b>【役割の理解】</b>	自分の役割を理解して責任をもって取り組もう	役割を理解し責任をもって取り組めるようにサポートしよう	家庭での子どもの役割をいっしょに考えよう	
<b>【地域イベント】</b>	積極的に地域イベントに参加しよう	地域イベントやボランティア活動の魅力を伝えよう	子どもといっしょに地域イベントに参加しよう	子どもが参加しやすいイベントを企画しよう

4つの「目指す学園生像」を実現するために、学校・家庭・地域そして子どもたち自身が、それぞれの立場で話し合い、できることを具体化したものです。みんなで取り組んでいきましょう。

三鷹中央学園HPより引用 <https://www.mitaka-schools.jp/mitakachuo/chiki/documents/smileaction.pdf>

子ども達のより豊かな学びのために  
学校の「こんな授業をやりたい」と地域の人財をつなげる

小1	あさがおリースづくり 昔あそび
小2	野菜の栽培 まちたんけん
小3	安全マップ 市役所の仕事
小4	車いす体験 まちの歴史・特産物
小5	日本の文化体験 農林水産業
小6	介護体験 理科実験 探究学習
中1	地域課題 保育体験 部活動 異文化体験 防災
中2	職場体験 職業人から学ぶ
中3	上級学校



学校や子どもたちの困り感の解決が  
地域課題の課題解決につながる

学校の設備を使用して、  
誰でも来ていい朝ごはん活動をやっている



学校の空き教室を活用して  
放課後カフェを運営している

地域の人が気軽に学校に行けるよう、  
コミュニティ・スペースをつくった



# 支援から協働へ

これからの学校と地域の関係 ～支援から協働へ～

学校



- ビジョンを示す
- 情報開示
- 校長のマネジメント力



パートナー

相互理解  
目標の共有

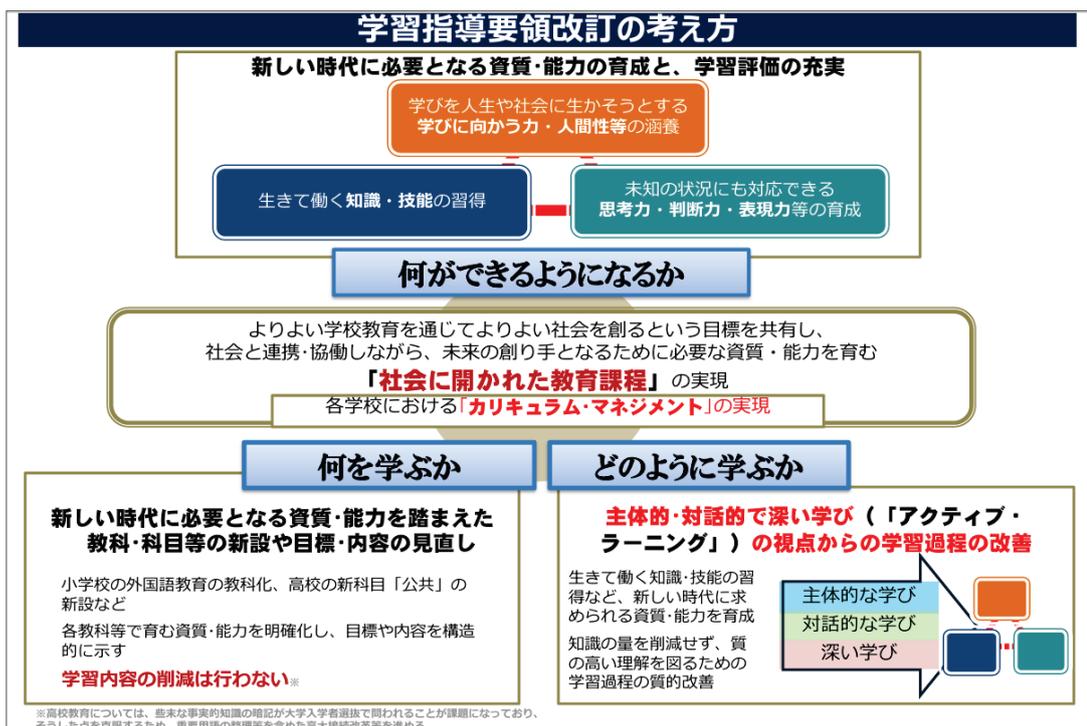
三方良し  
(Win-Win)

地域



- 当事者意識
- 辛口の友人
- よき応援団

# これからの子どもたちの学びは



文部科学省HP平成29・30・31改訂学習指導要領より  
[https://www.mext.go.jp/content/1421692\\_6.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1421692_6.pdf)

**これからの教育課程の理念**

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

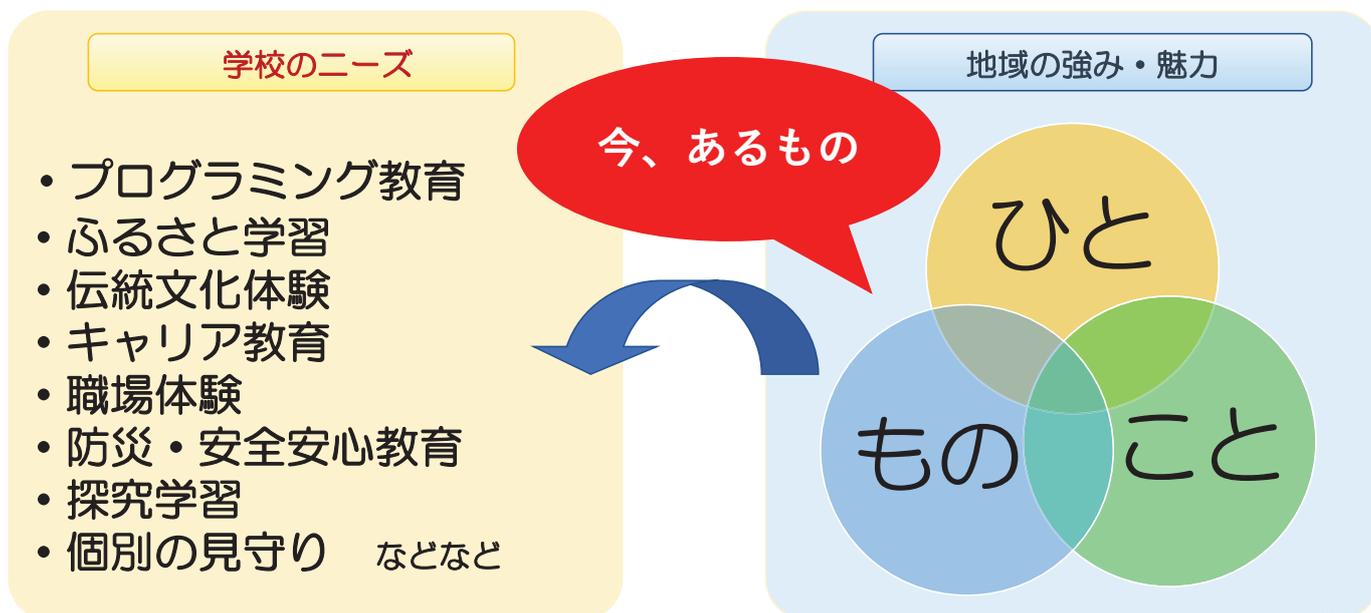
**<社会に開かれた教育課程>**

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

平成29年度文部科学省  
「新しい学習指導要領の考え方-中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ-」より引用

## 地域に「今ある」強みや魅力を最大限に生かす

★地域の力を最大限に活用して「社会に開かれた教育課程」を実現するカギはマッチング！



23

**「連携・協働」**とは  
ただ、学校のお手伝いをするこ  
とではありません。

# 「地域のか」って何だらう？



あいさつをかわす  
見守る  
励ます  
手本になる

声をかける  
寄り添う  
ほめる  
背中を見せる

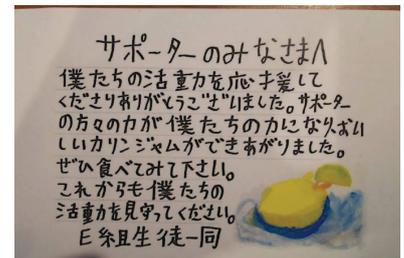


子どもたちの  
心の安定 自己有用 自己肯定感



# 地域を知る

# いい授業、おもしろい授業だからって「あたりまえ」じゃない



## 初めて見たときの驚き

第3表の1. 学校名 三鷹中央学園三鷹市立第七小学校

4 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	18	21	20	14	5	19	22	20	18	17	18	15	205
2	16	21	20	14	5	19	22	20	18	17	18	15	205
3	16	21	20	14	5	19	22	20	18	17	18	15	205
4	16	21	20	14	5	19	22	20	18	17	18	15	205
5	16	21	20	14	5	19	22	20	18	17	18	16	206
6	16	21	20	14	5	19	22	20	18	17	18	16	206

備考  
 ア 1～4年生は卒業式に出席しないため1日減  
 イ 振替休業日を取らない土曜日の授業を実施する場合の実施日 なし

(2) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の年間授業時数配当表【小学校】

教科・領域等	1	2	3	4	5	6
国語	306	315	245	245	175	175
社会			70	90	100	105
算数	136	175	175	175	175	175
理科			90	105	105	105
生活	102	105				
音楽	68	70	60	60	50	50
図画工作	68	70	60	60	50	50
家庭					60	55
体育	102	105	105	105	90	90
外国語					70	70
特別の教科 道徳	34	35	35	35	35	35
外国語活動			35	35		
総合的な学習の時間			70	70	70	70
特別活動(学級活動)	34	35	35	35	35	35
総計	850	910	980	1015	1015	1015

三鷹市立第七小学校HP  
<https://www.mitaka-schools.jp/shichisho-es/>

■小2 算数 かけ算九九をマスターしよう！

■中1 家庭科 ミシン実習エコバッグを作る

■小4 図工 彫刻刀を使って版画を制作

■小1 給食の配膳



何をサポートするのか？



先生たちが考えていること



どんなこと頼めばいいのかな

こんなこと頼んじゃって  
いいのかな

かえって面倒なことになっ  
ちゃうんじゃないかな…

# 学校を知る

学校運営協議会は

相互理解  
合意形成  
に大切な場

## 「残念な会議」になっていませんか？

- 年間の会議回数、時間が少ない  
→ 結果、議事が詰め込まれてしまう
- 校長先生や会長だけがしゃべっている  
→ 当事者意識が育たない
- 学校や地域の活動報告などの事務連絡会議になっている



会議の効率も大事だけど、、、  
「みんなが安心して意見が言える場」を  
どうやったらつくれるか？

## 大人たちの「会議あるある」を変えていけるか？

いつも発言する人、  
決まってるよ  
なあ…

おかしいな、と  
思ったけど、ま、  
いいか

意見を求められたから  
言ったけど、そ  
れって何か回答  
してくれるの？

- ▶ 声の大きい人の意見が「みんなの」意見
- ▶ 意見や要望を言っぱなし
- ▶ 対話を十分にせずに「多数決」

私なんかが発言  
しなくても誰か  
が言うでしょ

いつも最後は時間が無く  
なって尻切れトンボ  
この会議、意味あるの？

一方的に決められ  
ちゃったけど、本当は  
もう少し質問した  
かった…

アノ人が言った  
ことに反対意見  
は言えないよ  
なあ…

## 話し合いを生かす、会議の持ちかた

---

- 会議の招集権限は誰にある？
  - 学校運営協議会設置規則（もしくは設置要項）を確認しましょう。
  - 学校運営協議会委員の皆さんは、学校に招かれた客人ではありません。
- 学校運営協議会は学校の説明を聴く事務連絡会議ではありません。
  - 学校運営協議会は、学校と地域の委員の皆さんが議論をする場です。
  - 「話し合う」ことができるようになっていきますか？
- 何を（次第の検討）、どのぐらい（時間配分）、誰が（役割分担）話すのか？
- 全員が発言できているか？
- 話し合ったことはこの先どうなっていくのか？
  - 会議は学校のものでも、役員だけのものでもありません。
  - 会議は皆さんのものです。委員全員でいい会議にしていきましょう。

# 熟議



熟（熟慮） 議（協議）

よくよく話し合うこと

模造紙と付箋を使えばいい、ってことじゃありません

対話を大切に、対話のプロセスを大切に 熟議のススメ



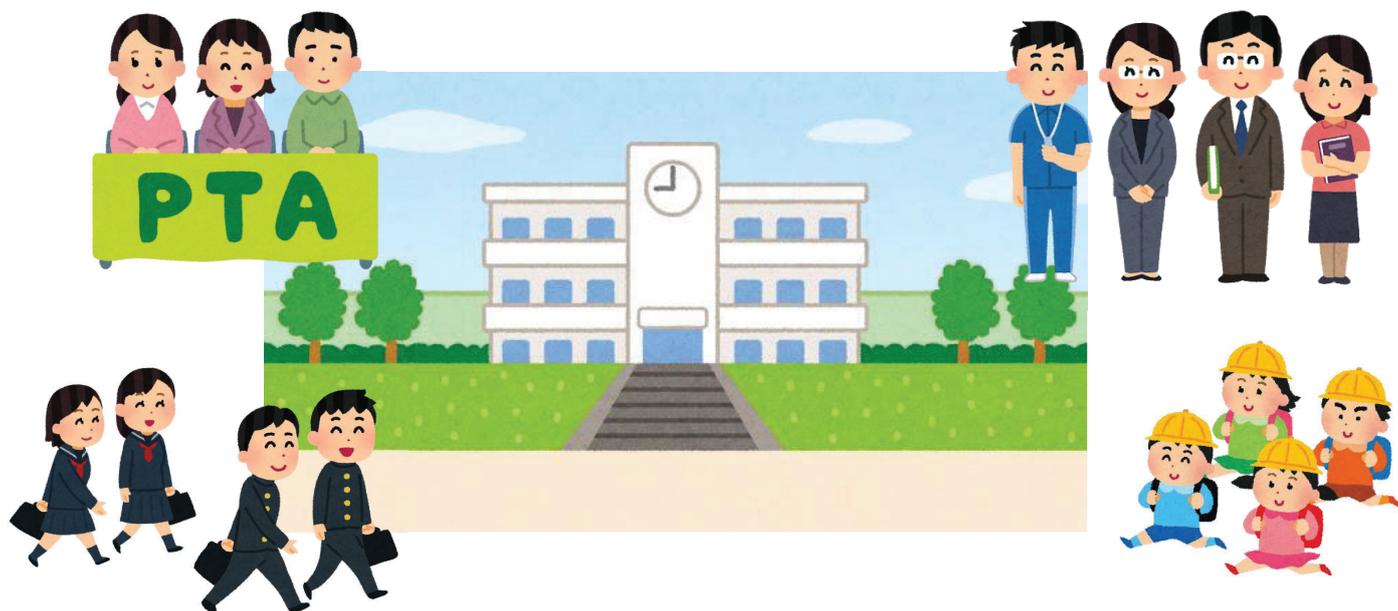
無断転載・引用ご遠慮ください



話し合いの質を高めて  
学校との信頼関係を  
構築する

子どもたちにとって「楽しく通える学校」はみんなの願い

---



それは  
誰がつくるのでしょうか？

コミュニティ・スクールについて学べます！  
文部科学省ホームページ「学校と地域でつくる学びの未来」  
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>

## 新しい豊かさを生み出す地域の力

～ 子どもたちの“今”から考える ～

西牧たかね

### 【1】はじめに

- ・プライバシーへの配慮
- ・発表の形式
- ・「地域」という言葉に込めたもの

### 【2】調布とわたし

- (1) PTA デビュー
- (2) 教員時代に出会った PTA
  - 私たち の 子どもたちのために (☆)
  - 今いるところを良くする

(?) 利己主義の反対語は？

### 【3】調布の子ども若者支援の強み

- (1) 特徴 1
  - 子ども・若者支援地域ネットワーク (配布資料)
  - ↓
  - ネットワーク と セーフティーネット = 安心 (☆)
- (2) 特徴 2
  - 進化し続ける
  - ↑
  - HOW で問う (☆)

### 【4】子どもたちの“今”

- ・子どもたちのしんどさ
- ↓
- 信頼の喪失 (?への)
- 孤立
- 自立の難しさ
- ※ 自立へのステップ 家庭⇒学校⇒地域⇒社会

### 【5】地域の可能性

- ・今、求められていること
- ↓
- 地域を心のよりどころに
- 小さなことが大きい (☆)

## 【6】新しい豊かさとは

(1) 豊かさの問い直し

・新しい指標

※ Well being を測る 11 の指標 (OECD)

⑩ 社会とのつながり ⑪ 市民参加

(2) 豊かさの変化

・新しい時代に何が求められているのか

↓

人と人のあたたかなつながり (☆)

(?) 矛盾する現実 を どう変えていけるのか

## 【7】地域の出番

(1) 子どもたちのためにできることを探す

希望のさざなみ (☆) = 伝わる

(2) 学習指導要領の改訂

・教育課程の柔軟化など

## 【8】その先を目指す

・「現実を受け入れる」 から 「現実を変える」 へ

(例) 椅子取りゲーム

・心の声に耳を傾ける

「ほんとはこんな学校にしたいんだ」

「ほんとはこんな地域にしたいんだ」

・希望とは

# 教育懇談会事前アンケート

## 【集計結果報告書】

### 調査概要

#### ■調査の目的

このたび調布市公立学校PTA 連合会では、令和7年度教育懇談会（12月10日開催）に向けて、「コミュニティ・スクール（CS）とPTAの協働のあり方」に関する事前アンケートを実施いたしました。

CS制度は本市において導入からまだ日が浅く、学校・地域・PTAそれぞれが手探りの中で取り組みを進めている状況にあります。本調査は、こうした移行期にある各校の実態を丁寧に把握し、現場で感じられている課題や期待を明らかにすることを目的として実施したものです。

本報告書では、アンケート結果の傾向を整理するとともに、12月10日の教育懇談会での内容を踏まえ、今後、各校における熟議や協働体制の構築を進めるうえで参考となる示唆を提示します。CSの理念である「地域とともにある学校づくり」を、本市の実情に根ざした形で育てていくための第一歩として、本調査が各校の取り組みの一助となれば幸いです。

#### ■調査期間

2025年10月13日（月）～2025年11月23日（日）

#### ■調査対象者（市内公立小中学校全28校）

PTA 役員／学校運営協議会委員／校長・副校長（学校運営協議会に関わっている教職員も含む）／地域学校協働本部関係者

#### ■調査方法

PTA 会長及び校長をつうじて依頼、Google Form アンケート方式

#### ■PTAの呼称について

近年、社会の変化に伴い、任意加入制やボランティア制の導入など、PTAの運営形態は多様化しており、そのあり方は一律ではありません。また、名称が「PTA」でなくても、保護者が集まり、教職員と対話しながら学校を支えるという、PTAと同等の機能をもつ組織も存在しています。本アンケートでは、こうした多様な組織形態を含めた総称として「PTA」という呼び方を用いております。

#### ■回収状況

総回収数 134 票

有効回収数 132 票（アンケートフォームによる重複回答や誤送信と判断できる票を削除）

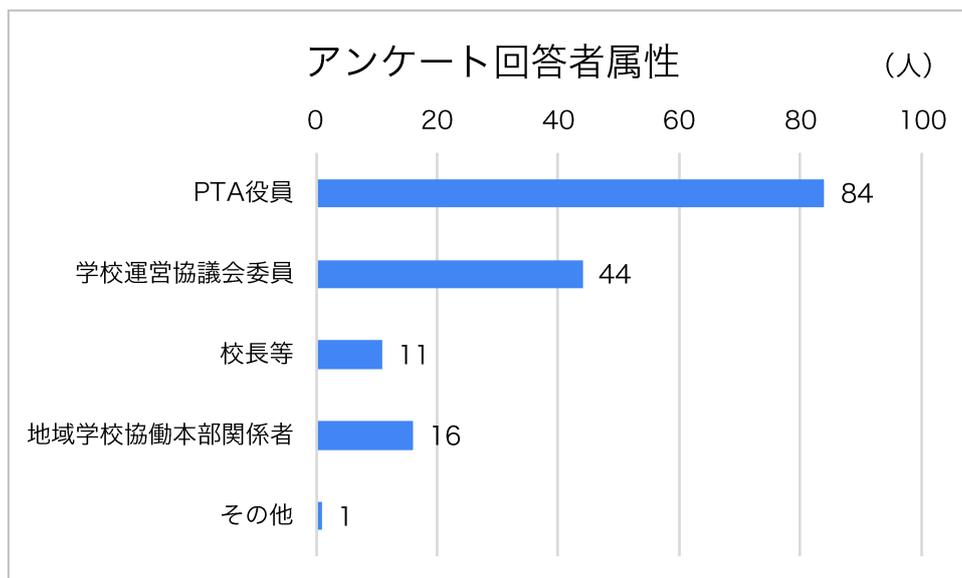
#### ■調査結果の見方

比率はすべて百分率で示し、小数点第1位を四捨五入しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。基数となる実数はnとして記載し、グラフの比率はすべてnを母数としています。

調査結果は、①回答者の基本情報、②CSの認識度、③現状の体験と課題、④今後への期待と役割、⑤地域の力と熟議の必要性、⑥クロージング「私の思い」の順に整理しました。

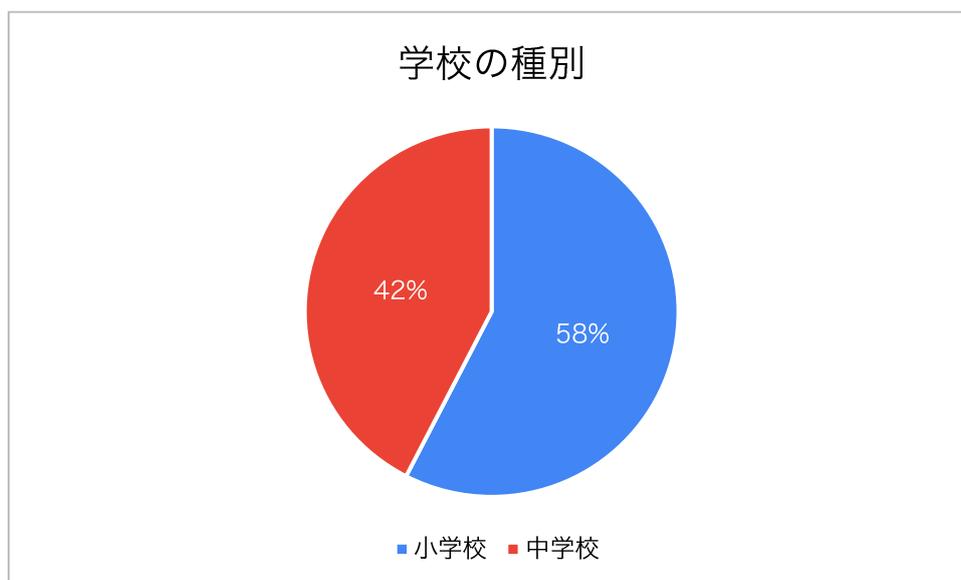
## ①回答者の基本情報

本項目は、有効回答 132 件を対象とした**回答者属性**の集計です。PTA 役員が最も多く 84 件、次いで学校運営協議会委員 44 件、地域学校協働本部関係者 16 件、校長等 11 件、その他 1 件となり、学校・地域双方の多様な立場から回答が寄せられています。



〔図1〕アンケート回答者属性 (n=132) ※複数回答可

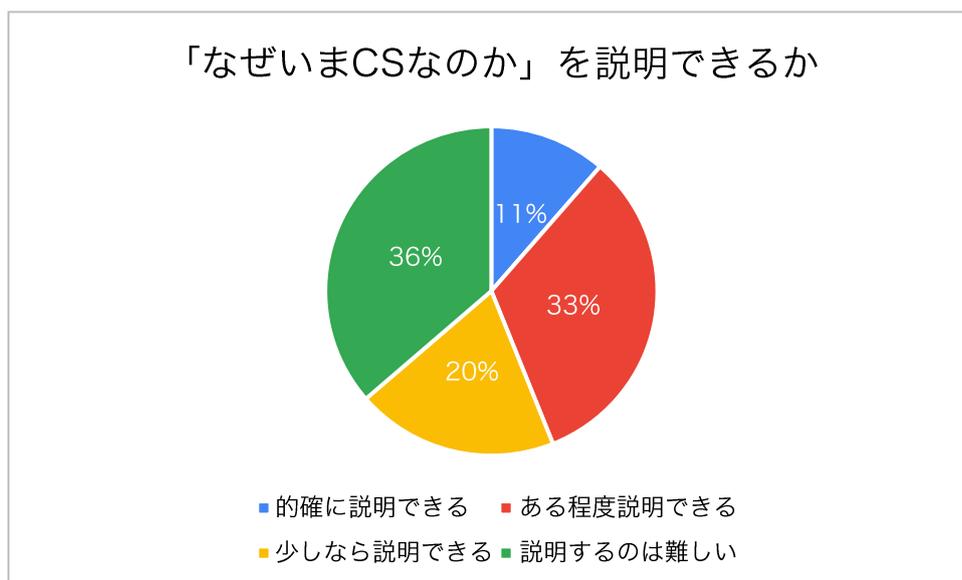
回答者を**学校の種別**ごとにみると、小学校が 58% (76 件)、中学校が 42% (56 件) となり、両校種から幅広く回答が寄せられています。



〔図2〕アンケート回答者の学校の種別 (n=132)

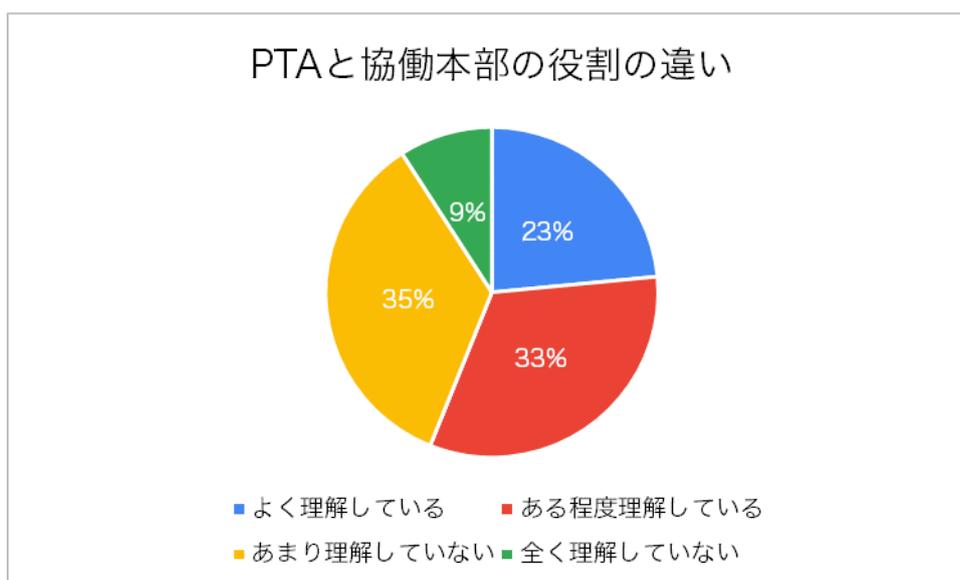
## ②コミュニティ・スクールの認識度

②-1 は、「なぜいまコミュニティ・スクールなのか」を自分の言葉で説明できるかを尋ねた結果です。「説明するのは難しい」が36%と最も多く、「ある程度説明できる」33%、「少しなら説明できる」20%が続きました。一方で、「的確に説明できる」と回答したのは11%にとどまり、制度の趣旨や背景について十分に伝わっていない現状がうかがえます。



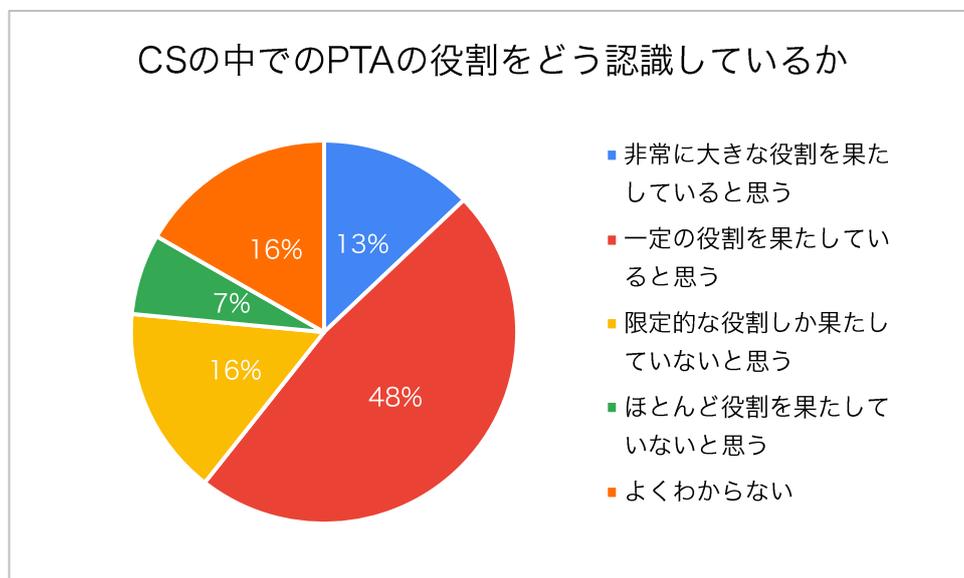
(図3) なぜいまCSなのかを説明できるか (n=132)

②-2 は、「PTA と地域学校協働本部の役割の違い」についての理解度を尋ねた結果です。「あまり理解していない」が35%と最も多く、「ある程度理解している」33%、「よく理解している」23%が続きました。一方で、「全く理解していない」は9%にとどまり、一定の理解は広がりつつも、双方の役割分担が十分に浸透していない現状がうかがえます。



(図4) PTA と協働本部の役割の違い (n=132)

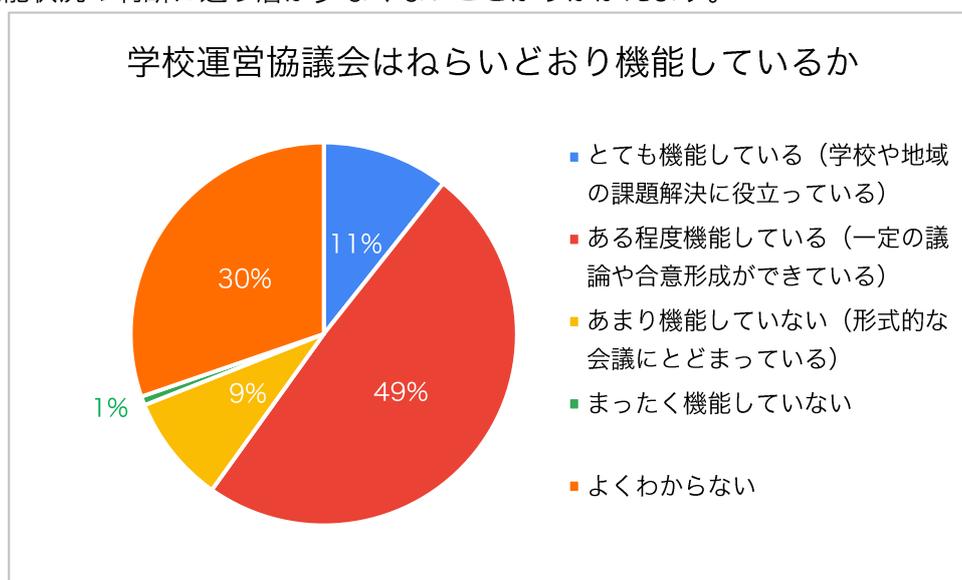
②-3 は、「コミュニティ・スクール (CS) の中で PTA が果たしている役割についての認識」を尋ねた結果です。「一定の役割を果たしていると思う (63 件)」が最も多く 48%、続いて「限定的な役割しか果たしていないと思う (21 件)」「ほとんど役割を果たしていないと思う (9 件)」がそれぞれ 16%でした。一方、「非常に大きな役割を果たしていると思う (17 件)」は 13%、「よくわからない (22 件)」は 7%となり、役割の捉え方には幅があることがわかります。



〔図5〕 CS の中での PTA の役割をどう認識しているか (n=132)

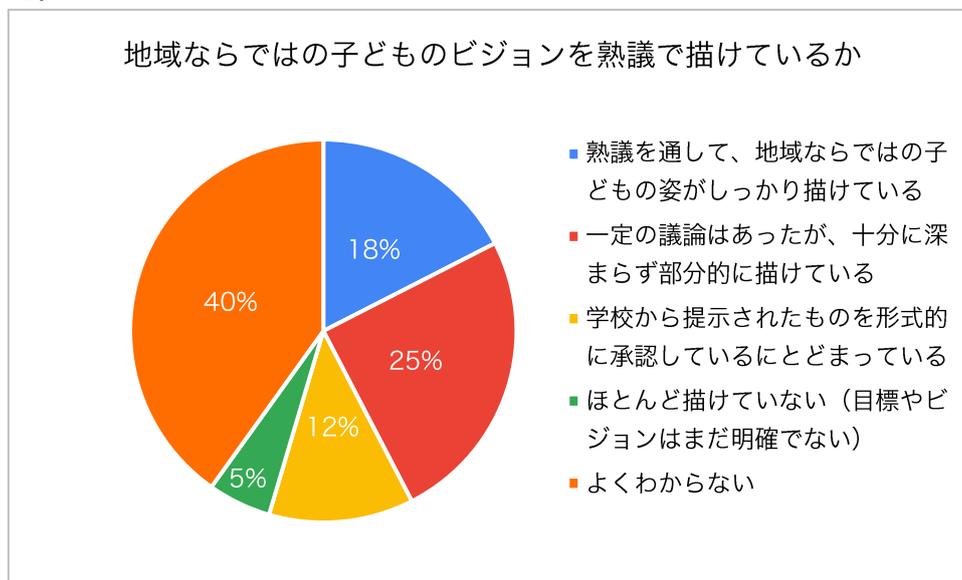
### ③現状の体験や課題

③-1 は、「学校運営協議会がねらいどおり機能しているか」を尋ねた結果です。「ある程度機能している (65 件)」が 49%と過半に近く、次いで「よくわからない (40 件)」が 30%となりました。「とても機能している (14 件)」は 11%、「まったく機能していない (1 件)」は 1%に留まり、「あまり機能していない (12 件)」との回答が 9%でした。一定の機能は認められる一方で、趣旨や実態が十分に共有されておらず、機能状況の判断に迷う層が少なくないことがうかがえます。



〔図6〕 学校運営協議会はねらいどおり機能しているか (n=132)

③-2 は、「地域ならではの子どもの姿に関するビジョンを、学校運営協議会などでどの程度描けているか」を尋ねた結果です。「よくわからない (53 件)」が 40% と最も多く、ビジョン形成の進捗を把握しづらい現状が示されました。「一定の議論はあったが、十分に深まらず部分的に描けている (33 件)」が 25%、「熟議を通してしっかり描けている (23 件)」が 18%、「学校から提示されたものを形式的に承認しているにとどまっている (16 件)」が 12% でした。一方、「ほとんど描けていない (7 件)」は 5% にとどまりました。



(図7) 地域ならではの子どものビジョンを熟議で描けているか (n=132)

③-3 は、「コミュニティ・スクール導入後、地域や PTA が子どもたちの学びや活動を支えたことで“よりよく変化した”と感じる事例」(自由記述) についての集計です。回答では、地域人材の授業参加やステップルームの設置、教員・保護者・地域の対話機会の拡大など、子どもの学びや支援体制が充実したという肯定的な事例が複数寄せられました。一方で、「変化がわからない」「CS の仕組み自体を知らない」「形式的で十分機能していない」といった回答も多く、導入効果の見えにくさや情報共有の不足、運営のあり方への課題も示唆されています。

CS 導入後に見られた良い変化についての記述	
1	コミュニティ・スクール導入後、地域・学校の現状が共有されることによって、共通の課題認識を持つことができた。また、普段は個々に活動している委員が頻繁に会うことによって、ある一定の連帯感が生まれているように感じている。
2	取り組み内容が伝わらず、よくわからないのが現状です。
3	地域の人材を学校に紹介してもらい、ゲストティーチャーとして子供に関わることで、子供たちの学びに寄与している
4	ステップルームを開室、見守りをしています。教室以外の子どもの居場所になっていると思います。
5	学校運営の仕組みを初めて知ることもあり、考え方の視点が増え、議論や提案の意識が変わりました。
6	昨年、学校に来づらい子供に向けた教室を整備することができたという話を聞いています
7	学校、地域、PTA が連携し、学校での問題を共有し、解決に向けて協力して取り組んでいる。例えば、教室にいずれい子や学校に通いにくい子に対する支援を地域の方を中心に行なってくださっている。その他学校の校則改訂や表現方法の相談など。常に児童の安心安全、成長を中心に据えた協議ができています。ただし cs 導入前から学校地域 pta の連携は密にとれており、変化というより以前同様学校地域 PTA の連携がとれていることではばらい環境がある。
8	よくわからない

9	地域やPTAは行事支援など頑張ってくれています。職業体験など。ただしcsとはあまり関係ないような気がします。
10	地域とPTAの役割分担がはじめのうちは曖昧で悩む場面があったが、月日を重ねるうちに役割が明確となり、PTAとして学校の先生方が負担に思っていたイベントの際の保護者の管理を担う事により、先生方が生徒の方に集中出来るようになったのではないと思う
11	まだ、そのような事例を実感できていない。
12	地域の方の意見を取り入れることで、学校行事など、様々な方向性から新しいやり方で行うことができるため、堅苦しくなく、子供たちにも受け入れてもらいやすくなっていると思います。
13	わからない
14	全然知らないです・・・
15	コミュニティスクール導入前から、健全委員や開放委員の皆様が尽力してくださっているので、変化はあまり感じない
16	より子供達のために、学校や地域と連携して動けるようになってきているように感じています。
17	一年目ということもあり、まだ感じたことはない
18	神代中学校はPTAの形を変え、保護者コーディネーター制度に変わりました。保護者を会員非会員に分ける事がなくなり、強制される役もなくなり、より良い方向に変化したと思っています。
19	制度が始まったことだけは知っていますが、実際に何がどう変化しているのか、実態がつかめません。
20	わからない
21	まだ活動の目的や目標を探っている段階です
22	学校運営協議会が中学にあることもよく知りません。
23	子供達の置かれている様子が見えてきていますのでこの後どう活動するか検討しています
24	会をかさねる毎に一方通行気味だった議題も委員全体での熟議になっていきました。その事によって学校側、保護者側、地域からの思いがわかるようになってきています。
25	今年からうちの学校は始まったので、コミュニティスクール色をあまり強く出していません。
26	体育大会の運営(会場整理)にPTAの方が参加していて、地域の方も含めよい雰囲気が醸成されていた
27	まだ立ち上がったばかりなので、具体的な事例はありません
28	学校の研究課題である「まなびの森＝学びの多様性実現」に向けて、学校と地域、学校と地域と有識者や団体、等で協働しています。例えば・・・現役大学生と留学生による「国際理解授業」を実施。英語を学ぶ目的や国際的なコミュニケーションの意味を、共に考え機会を持てている。例えば・・・戦後80年の時において、「戦争講話」＝被爆体験者の講話と我が町に在った戦時を知るイベントを校内で実施。参加者は、本校が在る地域から、児童・生徒をはじめ広く募った。講話の締めくくりには、本校合唱部が演奏を披露。我々の周りで、今は日常となっている「平和」が、いかに貴重であるかを共に考え対話する機会を持った。例えば・・・校内の現状と課題を共有し理解するためのひとつとして、「ICT活用」の実状を担当する教員から聞き、保護者＝PTAや地域の者がサポート出来る事柄を、継続して考えている。などです。
29	今年度立ち上がったばかりで、委員同士の役割などあまり明確になっていない。
30	3年目です。コミュニティスクールの効果は10年20年のスパンでみるものなので、焦らず、未来につながっていくだろう協働を地道に行っています。とはいえ、学校は現状にあわせた緊急的な対応も必要ですから、その取り組みとの両輪で一年ごとに考えています。 例:団らんの企画、不登校別室の設置、CS主導の出前授業、施設改善、行事の企画、教育委員会への意見書提出など。団らんなどの結果、横のつながりはできつつあり、地域の協働者が増えています。
31	それぞれの組織の連携がうまく取れておらずもったいないと感じています。
32	個人的にはCSが募集している保護者ボランティアで授業の補助等に参加し、必要性を感じているし、参加者側も、有意義な時間になっていると思います。また、PTA離れ、PTAに興味をもたない保護者が多くなっている中で、CSの活動は保護者が学校に関わる第一歩として、とても大きな役割を果たしているように思います。
33	自分自身がPTA活動をすることにより、コミュニティスクール導入などを初めて知る事ができました。まだまだPTAがどのような活動をし、子供たちを支えていけるのかを保護者の方にも周知していただけるようにしていきたいです。
34	様々な問題や課題があることを知る機会を得られた。

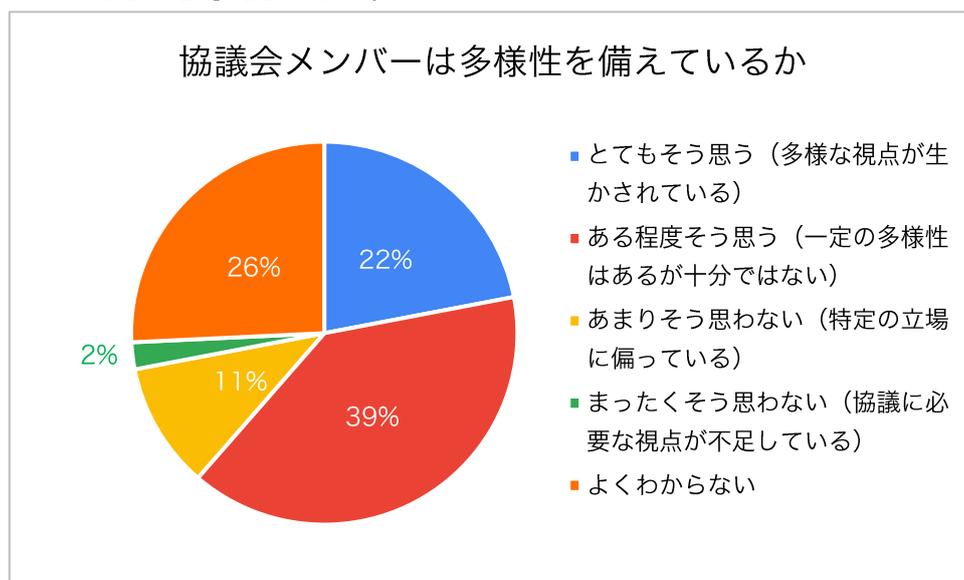
35	先生方全員とのお話し会の機会を設けていただき、一人15分程度ですがお話しできたことで、先生のことや先生が生徒にどのように接しているか、学校の現状なども知ることができたことが、今の活動に活かされていると思います。先生方にとっても、この地域をどんな地域なのかを知る機会にもなり、先生方との距離感も縮まったと思います。pta活動、地域学校協働本部の活動、CS活動、それぞれがそれぞれの役割を果たしていますが、地域コーディネーターが団体間のパイプ役になり、情報交換や共に活動をしたり、お互いの活動の手助けもしています。生徒は『地域の中の（地域の方に守られている）公立中学校』という位置付けをおそらく理解していると思います。積極的に地域のイベント等にボランティアとして参加したり、いざ災害が起きた時、中学生がこの地域の力にならなければという意識も芽生えつつあるように感じます。コミュニティスクールという言葉を理解してなくても、コミュニティスクール委員が誰かを知らなくても、よりよく変化していると感じています。
36	学校と保護者や地域の交流の場を作って、顔見知りになることで、子どもへのサポートがしやすくなったり、何が必要なのかが少しずつわかってきた
37	校長としては現所属校異動初年度であり、CS制度導入初年度でもあることから、学校運営に直接的にかかわる内容に関して熟議するに至っていない。今後は進めていきたい。1学期中にCS委員の皆様と教職員が学年・学級ごとに懇談する機会を作ったことは相互理解に向けて有効であったと感じている。
38	よくわかりません
39	それぞれ地域に根付いた組織が一堂に会する会議もありますが、関わっている組織の数が多く、議論と言うよりは報告会でした。今回CSは少人数で始められたことで、意見交換が少しは活発になったかなと思います。
40	初年度なので事例はございません。
41	地域やPTAの方が授業に関わる機会が増えたことで、より安全にスムーズに、児童一人一人にとって丁寧な学びの時間を得ることができたように思います。
42	まだ知らないことばかりなので、今回をこれからもっと考えていくきっかけにしたいと思っております。
43	学校運営協議会で教員懇談会（グルーブトーク）を開催し、相互理解が深まりました。毎回校長先生が学校の様子や取り組みを具体的に話してくださり、委員間で共有し活動に活かされています。
44	まずは第一歩として、学校の現状、児童の実態、教職員が課題と感じていることを、学校運営協議会の方々と共有することができた。
45	学校運営協議会で熟議を行い、教職員の全員と面談したり、色々個性豊かな先生方と顔のわかる関係性を築けて、学校の現状を身近に感じ、話し易くなって支援や協力がしやすくなりました。
46	学校運営協議会で小学校での教科担任制について説明があり、それにとまらうサポートの必要性(例:低学年の体力テストの計測を子どもではなく大人が行う)を知ることができ、実際にサポート体制を作ることができた。
47	先生方が第三者の立場のCSに話せたことで、安心感が高まり、管理職ができないフォローができた。地域の特性を活かして、学校内で子どもたちのボランティア活動の機会を増やし、主体性を高め、思いやりの心を持つことが当たり前になることは、学校の心理的安全性も高めたのではと思う。
48	立ち上げ、間もないため これからだと思います。
49	学校運営協議会に参加することにより、学校の現状、先生方の取り組み等を知ることができ、地域協力員としての意識が高まった。
50	今のところわかりません
51	地域の住民が講師として授業に参加したり、生徒と共にボランティア活動に参加することで、学校の様子が変わりお互いの理解が深まったように思う。
52	学校運営について、学校長がどのように考え、教職員がどのように考えていくことができるか、少し見えてきた。さらに、それに対して地域に求められることが明確になる必要があると感じられる。学校が持つ様々な課題を地域と共有することで、学校を核とした地域づくりが進むことを期待したい。
53	コミュニティ・スクール導入後、地域・学校の現状が共有されることによって、共通の課題認識を持つことができた。また、普段は個々に活動している委員が頻繁に会うことによって、ある一定の連帯感が生まれているように感じている。
54	学校運営協議会を月に一度行い共通認識も高く子どもたちのために何ができるかを検討し話し合いを重ね実際に活動している。
55	実態に即したアンケートの実施と分析
56	わかりません
57	学校運営協議会で地域の様々な子どもたちの状況が共有され、彼らの抱える課題をより深く知ることができた。自分にできることは何か？という視点が以前よりも増した。

58	地域の方々が子供たちの為に、多方面でサポートしてくださっていることが分かりました。
59	よくわかりません。
60	今年の夏休みに「五中未来塾」と銘打って、勉強のスケジュールの立て方を学びながら勉強を行う活動が、初めて行われました。参加者のアンケートでは中々好評のようでしたので、続けて行くように企画しているそうです。
61	教員への安心感を与えてくれている
62	学校の運営を、より保護者に近い立場で支えてくださっているように感じていますが、具体的な事例はすぐに思いつきません。
63	わからない
64	役員になり間もないためあまり現状を理解できておりません。
65	わかりません
66	まだ特段の取組はなされていないが、委員並びに学校側との認識は同じくしている
67	よくわかりません
68	学校への関わり方、考え方の質が高まると同時に、この学校のために自分には何ができるのだろうか、これまでよりも高いポジションで意識と気持ちを持てるようになった。
69	差し控えさせてください
70	体育祭の応援団や、合唱祭の会場について一緒に考えより良い方向へ進めた。
71	コミュニティ・スクールに参加していないため、よくわからない。
72	まだ大きな変化はない。学校の意向が強いことと、コミュニティスクール参加メンバーも積極的に何かをやりたいというものもないので、形式的にやっている感じがいなめない。
73	学校運営協議会で何度も熟議を行い、学校の現状をお伝えして理解していただき、子どもたちの学校生活、学習、行事、学校の課題等、様々なことを相談できています。取り組みの内容は、教員の校内研修会を参観してもらい現状を観ていただいたこと、6年生のキャリア教育で25名以上の様々な職業に就く方に来校していただき、ご自身のキャリアについてお話をさせていただきました。その効果は、子どもたちが将来に対して、夢が広がったこと、職業を身近に感じられたことです。
74	役員保護者同士、他学年の様子や子どもたちの様々な声を聞き、総じて学校内の様子や問題点を見出すことができていると思います。
75	分からない
76	学校教育に対する教員、保護者、地域の方、地域団体の関わり方をより深く考えることができた。学校を中心とした地域のあり方（地域における教員、保護者の役割と、学校教育において保護者、地域の方が果たす役割の切り分け）を意識することができた。
77	始まったばかりなのでまだこれからです
78	学校だけでなく、地域全体で子どもたちを育てていく意識が高まれば良いと思いました。
79	協議員と学校で情報交換することにより、地域ボランティアが学校教育に多く関わっている実情を理解することができた。
80	分かりません
81	申し訳ありません、わかりません
82	個人的な事ですが、初めてPTAに関わることで、自分の子どもだけではなく、学校や先生、他の生徒達の存在がより近くに感じられるようになりました。沢山の方が関わっていることを知り、地域の事や仕組みがより伝わる機会が増えれば良いなと思っています。
83	コミュニティスクールが導入されていることも知らなかった
84	「コミュニティスクール」という言葉を初めて聞いた。今も、なんのことなのか全くわからないままアンケートに答えている。学校運営協議会もどこを指すのがよく分かっていない。
85	小学校に入ったばかりということもあり、以前と比較して変化を挙げるのは難しいです。
86	コミュニティスクールについてあまり自分が理解出来ていません。
87	学校の方針や考え方、行っていること等を知っていただき、協力体制が強化された。
88	すみません、よくわかっておりません。
89	学校の状況を知り、支えあう場があることで課題を共有し、多面的に取り組めるメリットがあると感じました。
90	学校運営協議会が行われることで学校側の声を聞くことができ、PTAとしても学校教育活動への協力を強化すべく意識が高まったと感じます。

91	PTA 活動を行なっていて運営委員会にて学校の活動を知る機会があるがコミュニティスクールに関しては具体的な内容が把握出来ていないです。
92	学校の現状を包み隠さず伝えてくださり、理解が深まるとともに、地域の力が必要であると感じます。図工や家庭科の実習の見守りや校外学習の引率など、子どもたちの安全を見守る活動は充実してきていると実感します。
93	保護者の負担が軽減したのではないかと思います。
94	2年生の地域探検で地域コーディネーターが地域のお店や施設と学校をつないでいた。保護者もお手伝いする場面があった。
95	よく分かりません
96	コミュニティスクールの事をよく知らないなので、分かりません。
97	わかりません
98	分からない
99	CS 導入以前も地域学校協働本部で熟議に近いものが行われていた為、CS をきっかけに何かが変化したというふうには感じない。
100	学校運営協議会に安心して発言できる雰囲気がなく、殺伐とした苦しさを感している。協議会は、学校からの形式的な報告事項で終了してしまう実態があるため、委員はお客様状態。まだ何かがよくなったという実感は持てない。よくするどころか、委員は教育現場の実態にすら、ついていけない。学校経営のお荷物になっているのではないかと感じている。
101	学校の方針を認めて、CS が保護者や地域に発信することにより、これまでよりも学校が進みたい方向に舵を切りやすくなったのではないと思う。間接的ではあるが、良い影響が子どもたちに届いていると思われる。
102	情報なく、全くわかりません
103	学校と地域代表の連携が強化された。
104	よくわからない
105	今年度より PTA の活動に加わり、自分自身あまり理解が深まっていない。そのため今回参せてもらおう思った。なので知りたい協力していきたいと思っている方に対して、今回ような懇談会があること事態、大事なことだと思う。
106	協働本部の存在や役割を教員の方々が認識出来ていないように感じ、困り事についてアンケート調査を行った。その結果、職場体験関連の準備にかなりの労力を強いられているとのことで、受け入れ先へのファーストコンタクトのお手伝いを地域コーディネーターが行った。
107	手助けが必要と思われる授業の補助の募集があった。先生が1人で回すには無理があると思うことも多く、児童の進捗状況などに目を配るには支援は必要だと感じました。
108	学校運営協議会で熟議を行った結果、学校における一般職員及び生徒の現状について、管理職の意識とかなり乖離があることを感じた。その分、教員の負担軽減や生徒成長為、地域の支援の必要性を強く感じた。
109	小学校内でしたが、昨年関わった国領小学校内で、キャリア教育のイベントが好評であったと同時に様々な活動を1年目にしては深く出来ていたと思われます。
110	学校運営協議会は PTA と距離があり、議論の内容はこちらには降りてこない。
111	地域の方と共通理解をすることができた。
112	CS を通じ学校の実状に沿った支援(ジャガイモ畑支援 ミシン授業支援 展覧会設営 99 クリニック)が協働本部と共にできた。先生方と地域住民の距離が縮まる効果もみられる。
113	以前に地域コーディネーターを中心に、夏休みを利用して地域の人材を活用したサマースクールが開催された事があるが、コロナ禍以降、地域と学校の繋がりが希薄になっていた。代わるもので、子ども達の学びを支え、地域の人材も活用できる漢字検定に向けた勉強会を開催した。さらに、漢検準会場を PTA の方中心にお手伝いいただき、開催することができ、今年度もサマースクール、ウインタースクールを経て1月の漢字検定を行う予定。
114	学校の現状をお伝えし、方向性に対してご理解、ご協力いただくことで、子どもたちの育みが大変有意義なものとなっております。
115	校内教育支援センター(ステップルーム)開設に向けて熟議を行った結果、2学期から週1日ではあるが開設することができた。

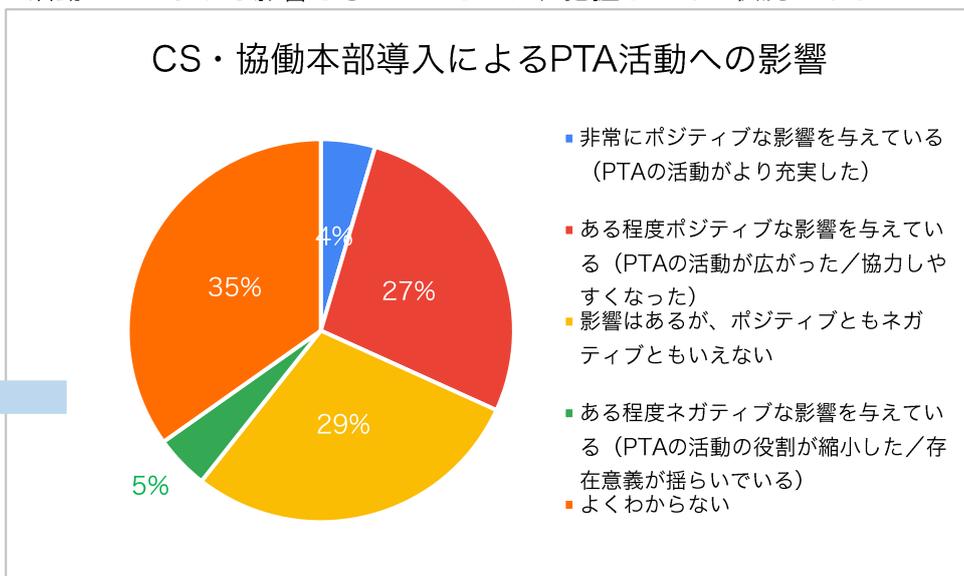
## ④ 今後への期待や役割

④-1 は、「学校運営協議会のメンバー構成が協議にふさわしい多様な視点で構成されているか」を尋ねた結果です。「ある程度そう思う (52 件)」が 39%と最も多く、「とてもそう思う (29 件)」が 22%でした。一方で、「あまりそう思わない (14 件)」が 11%、「まったくそう思わない (3 件)」が 2%となり、一定の多様性はあるものの、特定の立場に偏りがあるとの指摘も見られました。また、「よくわからない (34 件)」が 26%と比較的多かったのは、協議会メンバー以外の回答者にとって、構成状況を把握しづらい質問であったためと考えられます。



(図 8) 協議会メンバーは多様性を備えているか (n=132)

④-2 は、「コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の導入は、PTA 活動の質にどのような影響を与えていると思いますか」を尋ねた結果です。「非常にポジティブ (6 件)」「ある程度ポジティブ (36 件)」と回答した人は全体の約 3 割にとどまり、多くは「よくわからない (46 件)」(35%) と回答しました。また、「影響はあるがポジティブともネガティブともいえない (38 件)」も 29%と高く、CS・協働本部の導入が PTA 活動にどのような影響を与えているかは、把握しにくい状況にあることがうかがえます。



(図 9) CS・協働本部導入による PTA 活動への影響 (n=132)

上記の選択肢を選んだ理由や具体的な事例（自由記述の記載内容を要約したもの）

		選んだ理由についての自由記述
非常にポジティブな影響を与えている	1	地域の学校、児童に対する愛がとても深く、PTA も子供たちも常に地域にとってもよく支えていただいている
	2	校長先生はじめ、教職員の皆様と地域の保護者の皆様、生徒とも身近な関係性を築く中に学校側の困っていること、保護者や生徒の不安や悩みを、地域学校協働本部を通して、地域との連携により、解決に向けて協力し合っていると感じる
	3	新しい組織の存在で様々な活動が広く周知できると思う
ある程度ポジティブな影響を与えている	1	所属を超えた連携・協力がしやすくなった。
	2	PTA の活動が縮小され、負担が少なくなった
	3	役員などを無理やりやらされるのではなく、自分から子供たちや学校のためにお手伝いできる事はないかと積極的に考えられるようになった。
	4	今年度は地域共同本部のみなさまには学校イベントでご協力いただき、大変助けてられました。地域共同本部のみなさまとコミュニケーションをより円滑に図ることで、よりよい協力関係が築けると考えます。
	5	まず、本校の地域コーディネーターは、小・中で、PTA 役員経験者です。本校内の活動拠点(教室)は、PTA と地域学校協働本部で共用しています。伴い、お互いの活動を、(予め日時を特定しなくても、)そこに居れば確認し合うことが可能です。また、登校機会の多い地域コーディネーターが、PTA 役員・委員に代わって、保護者や教員の質問、要望に応えることも出来ます。例えば・・・標準服や体操着の寄贈・活用は、PTA 文化厚生委員の業務ですが、在校していることの多い地域コーディネーターが、保護者や教員に対応することが、少なくありません。例えば・・・地域活動や地域行事へのPTA 参加について、いつでも質問を受けることが出来、可能な範囲でのサポートも行えます。などです。
	6	子どもを取り巻く環境をよくしていきたいと思う保護者でも仕事などで余裕がない方も多く、また、人任せな保護者もいる中で、思いのある地域の方々の協力は欠かせない状態になっている。その姿を見てか少しなら協力できる、と声をあげてくれる保護者も見られる。
	7	PTA 役員・委員会に所属する以前に、単発の授業の補助の保護者ボランティアは、より自分の子どもの学校生活が身近に感じられる活動なので、参加しやすいと思います。そこから、PTA の活動への理解、協力、参加につながれるとよいと思います。まだ、仕組みがよく分からない保護者も多いので、PTA 役員としては、仕組みをわかりやすく伝える努力が必要だと感じています。
	8	地域コーディネーターがパイプ役になっているから
	9	地域との連携
	10	学校地域協働本部が機能しているため
	11	所属を超えた連携・協力がしやすくなった。
	12	始まったばかりということもあり、まだそこまでの関係性が築かれていない。
	13	子どもの卒業後、元PTA 役員さんがボランティアに参加してくださっています。
	14	地域の柱、開放運営委員と健全育成委員との距離感・関係性を配慮できるようになった。
影響はあるが、ポジティブともネガティブともいえない	1	PTA 組織そのものが改革されたため、PTA として何かに参加することが難しくなったため、そもそもPTA の組織改革のほうが多方面に影響を与えている
	2	情報共有がうまくいっておらず、行き違いが度々起きている。
	3	互いに影響を与えるほどの活動がまだできていない
	4	双方の動きを共有しながら進めている
	5	PTA の枠がなくなり、形のない保護者の協力活動にまだどこまでの影響があるのかわからない中、模索しながらも一緒に良い体制にしていこうという気持ちはあります
	6	今年度立ち上がったばかりなのでPTA の活動など見れていない。

	7	所属や立場に関係なく、同じ目標にむかって学校と協働できるか、大人同士協力し合えるかどうか、この意識を持てる人が少ないと感じる。目指すべきところは同じ、Pも地域も関係なく、互いにリスベクトしながらワンチームの意識で関わり合うのが本筋です。
	8	PTAとはまだそれほど連携が取れてはいない。
	9	現状では十分に認識できているとは言えないから。
	10	PTAはその学校内での活動が基本になるため、学校⇄PTAにて意思決定がされており、そこにCSは絡む余地はない。逆にPTAから街づくり協議会へ何か提案する事もないため、CSで各組織の代表が集まってもあまり効果的な議論はない。
	11	PTA活動には一定数の学校に関わりたい人がいて、その方々が積極的に関わってくださっていますが、それ以上に増えることもなく、極端に減ることもない、という印象です。
	12	PTAを活発に行いたい保護者となるべく協力したくない保護者の二極化を感じる。PTAに参加する人が限られる時代に入りお手伝いを拒否する傾向がある。なので保護者だけではなく、地域の力が重要だと思う。
	13	課題解決のためのプランがあっても、現役保護者は介入できないようなパターンが散見される。人手不足のための教室へのフォローなどは、ある程度良識のある保護者でないといけない等。
	14	現時点でのPTA活動が認識出来るようになった
	15	これまで学校教育、学校行事において保護者が担ってきた手伝い等の役割は地域の方に移行しつつある。保護者だからこそこの学校との関わり方があると思うが、それを意識しないと、保護者も教員も、PTAが必要ないもののように感じてしまうかもしれない。また、今後学校教育、学校行事に地域の力が益々求められるであろうところ、学校に協力することの取っ掛かりであるPTA活動が縮小すると、将来的に学校を支える地域の力が縮小してしまう可能性も感じる。
	16	CSとPTA活動が直接の関係を持っていない。調和小の場合、地区協議会の活動が盛んなため、ちょうど地区協議会の配下にCSとPTAが存在するような感じで上手くまわっている。
	17	PTAの役員の負担が、役職によっては増えたのではないかと思います。
	18	現状では判断しにくい
	19	教員の方々の中で協働本部が浸透していないように感じる
	20	初年度ということもあるし、CSがどのような話し合いをした上で今の状況となっているかが見えてこないため、これはいいとも悪いとも判断は今の時点では言えない。今現在行われている施策を見ると表面的なことを見ると、PTAがただのボランティア人材としての発注先になっているだけに見えてしまうと思う。
	21	コミュニティスクール立ち上がりの年に、PTA活動が休止になったので、影響を与えるうんぬんは測りようがない。が、旧PTAはコミュニティスクール構想及び協働本部について、勝手な解釈の元に解散してしまったので、そういう面ではネガティブとしか言いようがない。
	22	現役世代のPTAメンバーは活動時間が限定的にならざるを得ないから
ある程度 ネガティブな影響 を与えている	1	PTA役員が関わらせてもらえていないため
	2	PTAと関わりがないです。横の繋がりを形成しようとする姿勢が見えません。
	3	本来保護者のとりまとめの役割はPTAがすべきところを、協働本部が行い、PTAの意味が感じられない。
	4	地域学校協働本部が地域コーディネーター機能よりもステップルームのためのしくみになっている印象。よって地域や保護者に対しても協働の意識が薄いと感じる。元PTA会長を方程式のようにコミュニティ・スクールや地域コーディネーターに充てるしくみは、抜本的に見直したほうがよいのではないだろうか。
	5	学校地域協働本部という制度が整う中で、PTAがその存在価値をなくしている。よって加入者がどんどん減っていく。子どもそのものよりも、親が親を相手にする活動に集約されつつあり、それはまた保護者にとって、魅力的ではないものになっている。PTAをやっても教員との交流は働き方改革でとても限定的。役員の担い手はどんどん減少している。
よくわ からない	1	あまり関わることはない
	2	わからない
	3	もっと内容を広く周知してほしいです。
	4	まだまだ勉強不足で申し訳ありません。
	5	相乗効果によって助かった、良かったと感じた事がないから

6	特に影響はない。
7	申し訳ございません、まだ関わった経験がほとんどないためこれからお役に立てればと思います
8	PTA 会長以外の保護者の声を聞く機会がないのと、学校運営協議会の存在や活動について保護者の認知度がまだないと感じているから
9	具体的なPTAの活動に触れる機会がほとんどないので、現役の保護者ではない自分にはわからないことが多い。CSの委員にもPTAの印刷物などが配布されると理解できることも増えると思います。
10	上記二つの組織の方々との接点はない。

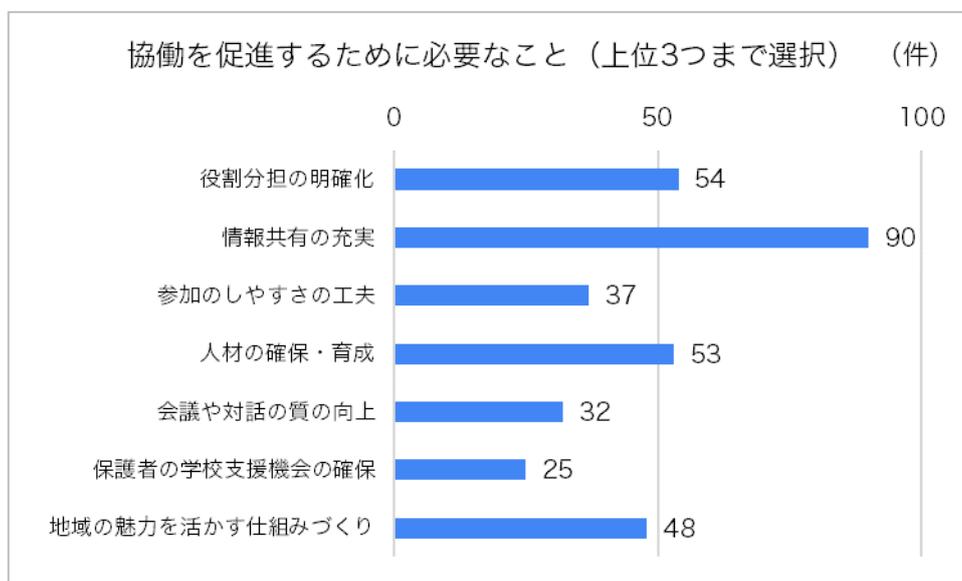
自由記述では、肯定的な声から懸念まで幅広い意見が寄せられました。まず目立ったのは「よくわからない」という回答の多さです。PTA 役員以外の保護者には、学校運営協議会や地域学校協働本部の活動内容が十分伝わっておらず、日頃の関わりの薄さから判断できないという回答が多く見られました。制度が始まったばかりで、接点自体が少ない学校があることも背景にあります。

肯定的な意見では、地域との連携が進んだことで「協力しやすくなった」「負担が軽くなった」「単発ボランティアの参加が促される」など、**保護者の関わり方が広がった**という声が寄せられました。また、地域コーディネーターがパイプ役となることで情報共有が円滑になり、学校行事や学習支援の質向上につながっているという評価も見られました。

一方で、地域学校協働本部に役割が移ったことで **PTA の存在意義が弱まり、「活動の縮小」や「担い手の減少」を懸念する声**もあります。学校側や地域コーディネーターとのコミュニケーション不足から、距離感の拡大や不満を指摘する意見も少なくありません。また、「PTA と地域の役割の違い」が保護者にとって曖昧になっている状況も見受けられました。

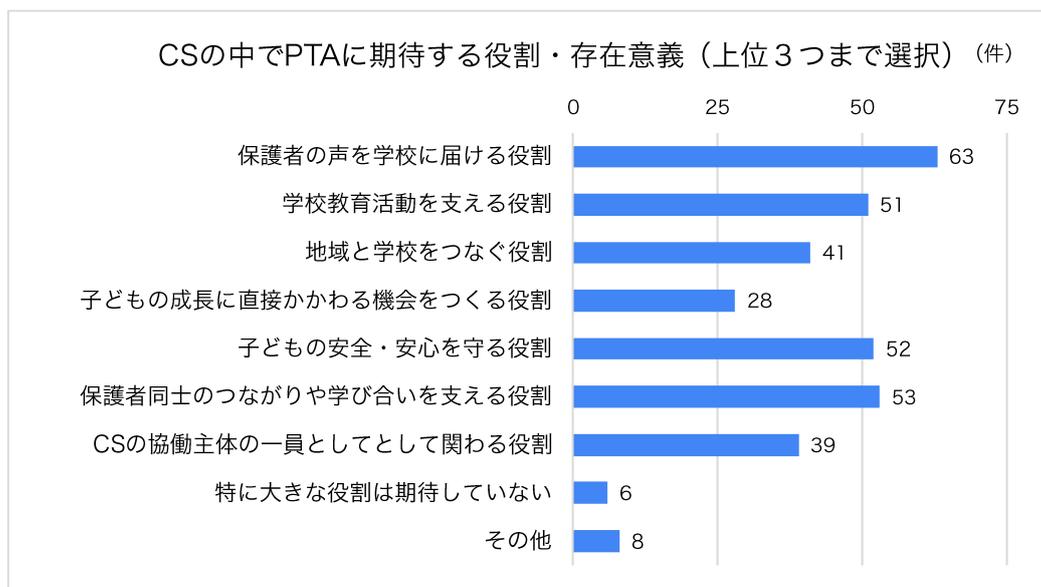
総じて、CS・地域学校協働本部の導入は協働を進めるきっかけにはなっていますが、その影響の受け止め方には大きなばらつきがあります。今後は、制度の目的や役割分担をPTA全体が正しく理解できるよう、**情報共有の改善と対話の機会づくり**が重要であるといえます。

④-3 は、地域・学校・PTA の協働を進めるうえで「特に必要だと思うこと」を上位3つまで選択してもらった結果です。最も多かったのは「情報共有の充実(90件)」で、次いで「役割分担の明確化(54件)」、「人材の確保・育成(53件)」、「地域の魅力を活かす仕組みづくり(48件)」が続きました。協働を広げるためには、まず情報伝達の仕組みを整え、互いの役割や人材基盤を強化する必要性が示唆されています。



(図 10) 協働を促進するために必要なこと（上位3つまで選択）(n=339)

④-4 は、CS の仕組みの中で PTA に期待する役割を尋ねました。最も多かったのは「保護者の声を学校に届ける役割」(63 件)で、保護者代表としての機能への期待が大きいことがわかります。次いで「子どもの安全・安心を守る役割」(52 件)、「学校教育活動を支える役割」(51 件)、「保護者同士のつながりを支える役割」(53 件)が続き、学校と家庭を結ぶ基本的な役割が重視されていました。一方、「地域と学校をつなぐ役割」(41 件)や「CS の協働主体の一員として関わる役割」(39 件)も一定の支持はあるものの、上位ほどではありませんでした。「特に大きな役割は期待していない」は少数にとどまり、多くの回答者が PTA に何らかの意義を見出していることが確認できます。総じて、PTA には従来の強みに加え、CS の理念に沿った協働の担い手としての役割も今後期待されていると言えます。



〔図11〕CSの中でPTAに期待する役割・存在意義（上位3つまで選択）（n=339）

## ⑤未来に向けた地域の力や熟議の必要性

⑤-1 は、あなたが期待する“地域の力”について尋ねました。自由記述では、多くの回答者が「地域の力」を、子どもを社会全体で支え育む力として捉えていました。特に、登下校や日常の「見守り」による安全・安心の確保、多様な大人との関わりや地域資源を生かした活動を通じて子どもに多様な体験や学びを提供する役割が重視されています。また、世代や立場を超えたつながりが、子どもにとっての「地域愛」や「ふるさと意識」を育み、災害時などの有事にも力を発揮するという期待も多く寄せられました。さらに、地域の温かなまなざしや支援の積み重ねが、子どもの社会性の発達や、自分も将来地域に貢献しようとする循環を生むという意見も見られました。総じて、地域が学校や家庭と協働しながら、多様な大人の役割と文化を生かして子どもを育てる「共育の力」が期待されているといえます。

	あなたが期待する“地域の力”についての自由記述
1	様々な立場の方々が「地域」という共通項によってつながり、子どもたちを共に支え、育む力。
2	子どもたちが地域の中で顔の見えることにより安全で安心な地域にしていく力
3	子供たちを不審者などから守ること。また、子供たちに多様な体験や学びを与えてくれること。

4	地域の人々が関わることで、子どもたちは安心して生活し、多様な価値観や人との関わり方を学ぶことができる
5	多様な大人に出会う機会があることにより、子どもたちに選択肢の幅が広がること。親以外の斜めの関係性が生まれること
6	地域全体で子供たちを支えることができる 学校を卒業したらもう地域には関わらないという世帯を少なくできたら
7	子どもを大事に思ってくださいの気持ち。それが我が校地域にはあるので毎日の登下校の見守りから、地域が協力する行事まで多方面で地域から信じられないほど手厚く支援していただいている。それが子供にも伝わり、子供も成長した際同じように学校含めた地域に貢献しようとする土壌がある。
8	地域の行事等に参加し、「役に立った」「貢献できた」という体験を与える力
9	生徒を大事にしてくれる地域の人が増えたら生徒はやり過ぎやすく、教師の負担は制限されるのではないかと思う。前提として地域と学校の信頼関係が必要。登下校の安全らイベントなど地域の支援をうけられるようになると思う。
10	教員でも保護者でもない立場からの愛情あふれる意見と視点。学校の立場や教育課程にとらわれない部分。
11	日頃から地域の方々との交流を通して連携が取れる状態となり 今後起きるであろう災害時に 皆が力を合わせて前を向く団結力を発揮する力
12	互いに助け合う心を育む
13	学校だけでは教えられない、自分たちの住む地域のことを知ることができること。
14	わからない
15	子供の成長を邪魔しないこと
16	多世代交流
18	調布ならではの自然や長所を学ぶ機会
19	職場体験、歴史・文化の伝承
20	保護者にはできない生徒の援助や地域とのつながりを築くこと
21	子どもたちが学校の枠組みを超えて、社会全体を知ってもらえる
22	子供自身が地域の人から支え、見守られていることを実感でき、それに子供が感謝できること
23	分け隔てなく子供達を見守り支える力
24	地域のイベントなどをもっと魅力的なものに変え、子どもたちが参加したいと思えるものを地域の大人と企画できたら良いですね。
25	子供達が健全に成長できるようにしていきたいと思います
26	でしゃばらず、でも必要とされた時は協力を惜しまない、子ども達がここに育ってよかったと言われることが地域、地域住民の力の見せ所だと思います。
27	子どもを真ん中に多様な価値観のもと、さまざまな年代が繋がり合って関わり合い、有事の際に相互に助け合う心を育む場であることです。
28	性犯罪や事故防止の抑止力に地域の目が必要。
29	学校教育に社会とのつながりをもたらしきっかけとなる力
30	「地域」はそこで育った子供たちにとって「故郷」であり、いつでも戻ってこれる場所を提供出来ることが力になると思います
31	自らの知識や体験や時間を、地域に活かす機会を考え対話する人たちが増えること
32	安全、見守り、学校への必要に応じたサポートなど
33	身近にいる人や住んでいる地域を大切に思う大人たちが学校のために協力し合う姿を見せること、多様な大人が学校に関わり合うことは、成長過程にある子どもたちに安心感を与え、社会性や共生力、想像力などに良い影響を与えるでしょう
34	地域の方と保護者が情報共有し、協力して子どもたちに色々な経験を提供し、ゆくゆくは地域を引っ張っていける力をつけていけるようサポートできる力
35	子どもたちが安全に安心して、生活できる環境。楽しくイベントに参加する中で、自主性や協力を学ぶ
36	登下校など子供の安全を守る、見守りの力。
37	地域の行事・イベントや教育等における子ども達への様々なサポートや見守り
38	時代の流れに対応しながら柔軟に子ども達の教育や成長をサポートする事
39	PTAや学校が孤立せず、地域全体で子どもを育てる意識（共育）を高めるための連携を期待します。

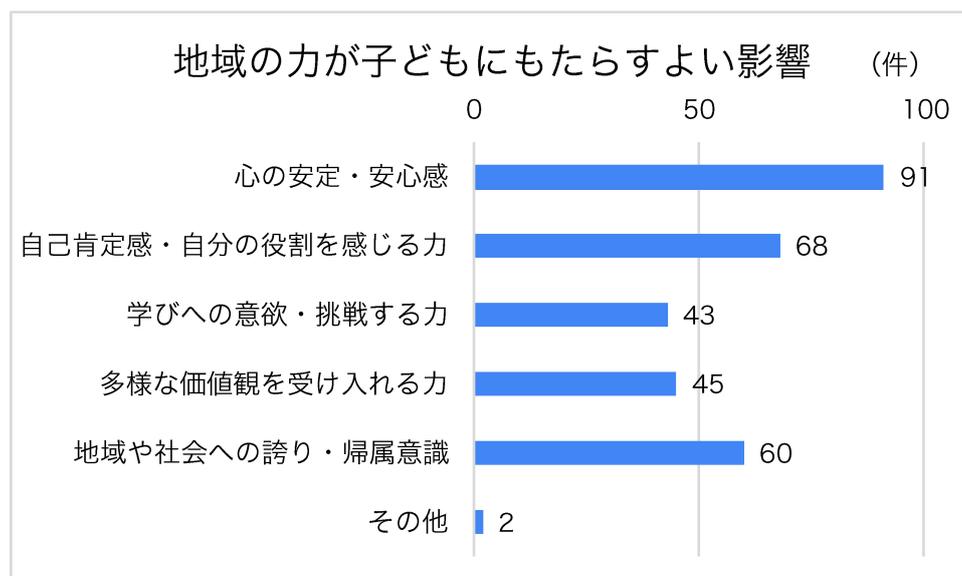
40	何かを提供するというのではなく、学校（生徒や先生方）と様々な場面で交流する機会を持つことで、自然と地域力が発揮されていくことに繋がると思っています。
41	その地域の特色・文化を伝えたり、地域の方の見守りで安心して過ごすことができる
42	学校とともに協働して子どもたちを育てる力
43	安心安全な街づくりで子供達が伸び伸びと暮らせる環境を作る
44	地域組織が運営し、放課後の学校(校庭・体育館)を開放。 子供たちが普段の公園と同じように過ごせる場の提供。
45	中学生となり、行動範囲が広がるので安心安全のため地域の目としてご協力いただきたい。
46	例のとおり。さらに、地域の方が子ども達に興味を持ち、温かく関わってくださる関係性。地域の方の特技を生かした子ども達への関わりにより、多様な体験や学びを提供できる力。
47	どんな子どもたち、その家族達にも寄り添える環境
48	児童が地域の人に安心できることが大事ななと思います
49	子ども達のさまざまな体験
50	地域の特色、児童の実態に応じた体験や学びを、学校と共に提供する力
51	子どもたちが、大人になって、ここがふるさとこの地域で良かったと思える場になり、次世代に繋いで行って欲しいです。
52	子どもや教員が変わっても、それを受け入れ見守りながら学校を支えていく力
53	地域全体で子どもを育てようとする意識の向上をして、子どもたちの好きや好奇心に応じた居場所作りとそれぞれの場所との連携。
54	人と人が繋がりがあい、その中で、子どもたちが育っていけること 安心感、地域愛
55	地域の様々な行事、文化に触れる機会を与え、体験を通して、成長や学びを提供出来る力
56	地域の子どもの事を心にとめて、安全安心を見守る力
57	子どもたちに、地域の大人との交流を通して、家庭や学校だけでは出会えないロールモデルや画一的では無い考え方と触れ合う機会を提供できる力。
58	子どもの成長の手助け
59	地域行事や学校行事を通じて、保護者や地域の大人が子ども達のためや地域づくりのために動き、その後ろ姿を見て、地域の子どもの成長につなげていく。
60	様々な立場の方々「地域」という共通項によってつながり、子どもたちを共に支え、育む力。
61	災害時等、緊急事態が発生したときに発揮するコミュニティの繋がりの強さ。
62	子どもたちが伸び伸びと学ぶ場を提供し地域の大人と関わり経験豊富に育ってほしい。
63	そこで育つ子供の近くにいること。近くで成長を見守り支える力。
64	共働き家庭が増え、日々たくさんのことを抱えて過ごす中で、子どもたちが社会の中で多くの大人に見守られながら、安心して育つ豊かな環境をみんなで作っていかれたらと思います。
65	子どもたちが将来に期待を持てるような機会作り
66	子供を守りつつ、様々な体験経験をさせる力
67	災害時の助け合いで求められる力だと思う
68	まず、安全安心して通える環境づくりを行うことが大切かと思います。
69	安心安全を確保して、共に子供達を見守ること。
70	多様な体験や学びを提供できる力。
71	昔の長屋暮らしのように、地域で子ども達を育て守ることが、地域の方だと思います。
72	子供たちが根付きたいと思うような地域づくりを、学校ではなく地域が主体でやること
73	子どもたちが、自分の住んでいる地域の良さを感じ、その環境の良いところを誇れるようになること
74	人と人がつながること
75	子供を温かく見守り共に育ててくれること、安心感
76	見守り。悪いことなどその場で注意してあげられる人がたくさんいると良いと思います。
77	生徒が地域活動（祭、運動会、防災訓練等）に積極的に参加している姿
78	様々な立場から子どもたちにとって良い方向性
79	大きな地域愛を大前提とした、第三者的要素からの客観的評価を踏まえたフェアな意見。（学校、または内部の人間の目線では気が付かないところなど）
80	子どもたちの目線での地域の見守り

81	地域で子供の安全に資する力
82	地域の特性を活かし、子供達に学びの場を提供できる力
83	世代や立場を超えて支え合い、子どもたちをあたたく見守り育てていく力
84	地域の特色を生かして、その小学校のエリアだからこそ学べる体験。
85	子どもたちが安心し、安全に活動できる環境を整える。地域で子どもを見守る。
86	地域を生かした様々な体験や学びを支える力
87	子供達の安全に対する意識、様々な体験の機会を与えられる役割
88	個の存在も守る為に、見守る大人や顔見知りの大人を増やす事で地域で安心して暮らせる事を期待します
89	多彩（多才）なプレイヤーの存在。子どもたちの安全・安心を常に気に向け、守るために動くことのできる「近所のお兄さん、お姉さん、おじさん、おばさん、おじいさん、おばあさん」
90	身近にいる人や住んでいる地域を大切に思う大人たちが学校や生徒のために協力し合う姿を見せること、多様な大人が学校に関わり合うことは、成長過程にある子どもたちに安心感を与え、社会性や共生力、想像力などに良い影響を与えます
91	子どもたちに様々な経験を体験させたい
92	地域の人々が顔見知りになることにより、お互いが不信感なく交流できること。それにより治安が向上し、子ども達が安心して過ごせる町を維持し続ける力になる。
93	地域の方と子どもたちの交流を通して、子どもたちの視野を広げること
94	緩やかにつながり、子どもが困ったときに助け合える力
95	みんなが子供を見守ってくれていると、子供自身が感じることが出来る環境。
96	放課後、子どもの遊ぶ場所が少ないので、安心して遊べる場所の提供をしてほしい
97	災害の時など、助け合わなければならない時にスムーズにコミュニケーションを取れる力。
98	未熟な子どもたちの成長を手助けすること、見本となること。また、事故や事件に巻き込まれないよう見守ること。
99	自然災害時には、安心して、頼り頼られる存在。 顔見知りを多くする。
100	学校が目指す目標実現のために、地域人材が関わり、強みを生かし、共に同じ方向を向いて連携する力
101	子供も親も（人付き合い・防犯面などで）安心して街で生活できる
102	多様性の提供だと考えています
103	地域全体での子どもたちの見守り
104	職業体験、TGGのように地域の方々と触れ合い学校の授業以外の体験をする事により色々な情報を吸収して興味を持ってもらう機会を与える。
105	子どもたちを育て、成長を見守るのは保護者と学校だけではなく、地域で育てるということを実践し、子どもや保護者にそれを感じてもらえること。
106	子供の安全を見守り、学校と連携して子供たちを守る力。
107	世の中が子どもの運動能力の低下を強く掲げるのであれば、その部分を地域の方々にサポートしていただけるのが地域の力なのではないかと思えます。
108	包容力 許容
109	いま現在子育て中の保護者参加は難しいため、保護者に代わり地域がすぐに手を差し伸べられる立場に居る事。その為には学校と地域が密に関わり合う事。
110	いつも大人に見守られているという安心感を与えることができます。家庭と学校だけでなく、地域の人と関わることで子供の視野が広がり多様性を学ぶ機会にもなると思えます。
111	所属する保護者、生徒のもつコンテキストの掘り起こし
112	地域で支え合い子供を育てる力
113	見守り
114	地域の文化について語れる力が身に付くこと
115	子どもたちが安全・安心に過ごすための「見守り」「関わり」
116	少し先の未来を見据え、この地域で育つ子どもたちの姿を思い描きながら、それを実現していく人のつながりと行動の力。
117	社会が複雑になる中で、学校や子どもたちを温かく見守り、支え合う地域のつながり
118	人の居場所

119	地域で支え合う共同体としての力
120	子供たちのために、と思う力
121	互いに助け合い、（適度な距離で）見守ることのできる力。孤育てや単身者・高齢者の孤立を見捨てない力。
122	子どもたちが成長した時に、ここで育てて良かったと思える、地域の強みを子どもたち伝えていきたい。
123	学びの場を提供出来る人
124	地域の各世代の繋がりと、それによる子ども達が安心して地域で過ごせる環境作り
125	様々な行事や支援ボランティアを通じて、親以外の多様で身近な大人と関わりながら、子どもが安心して成長できる環境を提供できる。やがて成長した子どもが、支援する側になり、文化・教育・伝統を引継いでくれる。
126	地域の文化や役割を通じて子供達の育成や保護者、学校と協力関係を築いていけることができれば嬉しい
127	今の保護者は働いていて忙しく PTA だけでは人手がまかないきれいでない。地域の力も借りて支えていないと活動がどんどん難しくなると思う。
128	学校とともに子どもを育てる力
129	様々な世代、職種、経験の方がおり、自らの体験や知識を伝える事で、子どもたちの可能性が広がる場になる
130	地域の企業への訪問、あいさつ運動、防犯パトロールなどで身近なサポーターとして見守り強化。地域の年間行事イベントで文化を継承し、多様な社会を生き抜く力を学べること。
131	子どもたちに多様な体験や学びを提供できる力
132	地域の魅力を子供たちに伝え、子供たちが地域に誇りをもてるようにする力

⑤-2 では、**地域の関わりが子どもにもたらす「良い影響」**について、回答者に上位3つまで選んでもらった結果を示しています。地域の力が子どもにもたらす影響として、最も多かった回答は「心の安定・安心感」(91件)でした。次いで「自己肯定感・自分の役割を感じる力」(68件)、「地域や社会への誇り・帰属意識」(60件)が続いています。そのほか、「多様な価値観を受け入れる力」(45件)、「学びへの意欲・挑戦する力」(43件)が挙げられており、「その他」は2件でした。

総じて、地域の力は子どもたちの「安心感」と「自己肯定感」を中心に、多面的な成長を支える重要な基盤として捉えられていることが明らかになりました。



(図11) 地域の力が子どもにもたらす良い影響 (上位3つまで選択) (n=309)

## ⑥クロージング：私の思い

⑥-1 は、**コミュニティ・スクールにける思い**を尋ねて、自由記述で得られた回答です。コミュニティ・スクールに対して、子どもを真ん中に据えながら「**学校・家庭・地域が一体となって育てていきたい**」という思いが多く寄せられました。とくに、地域の多様な大人と出会える機会を通じて、子どもたちが安心して学び・遊び、将来への希望や地域への愛着を育める場になってほしいという期待が強く示されています。また、登下校や災害時を含む安全・安心の確保、学びや体験活動の充実など、学校だけでは担いきれない部分を地域と連携して支えたいという声も目立ちました。

一方で、「コミュニティ・スクールの内容がよく分からない」「具体的に何をしているのかが見えにくい」といった意見も少なくありませんでした。PTA や地域組織との役割分担や負担感への不安、委員の選び方や一部の人に活動が偏ることへの懸念も挙がっています。今後は、活動内容や目的を分かりやすく発信し、学校・PTA・地域それぞれの強みをいかしながら、より多くの人に参加しやすい協働の仕組みづくりが求められているといえます。

	コミュニティ・スクールにける思い（自由記述）
1	コミュニティ・スクールを通じて、地域と学校が一体となり、子どもたちが安心して学び、この先の幸せにつながる力を育める環境をつくりたいと考えています。子どもたちの未来をみなで考え、共に成長していけるような場となることを願っています。
2	現在、PTA とコミュニティスクールがあまり関わりがないため、まずはPTA も一緒にコミュニティスクールについて考えていける組織にしていけたらありがたいです。
3	地域と学校が協力して、未来を創る子供たちを育てていきたいと願っています。
4	地域の人が関わることで、子どもたちは安心して生活し、多様な価値観や人との関わり方を学ぶことができると思うので、子どもたちを支援していきたい。
5	それぞれの役割、立場だからこそできることがあると思います。同じ目的をもって子どもたちの成長を地域で見守り、学校の先生たちとともに可能性を広げて
6	地域として学校に何ができるか、地域全体で子供たちのために何ができるかを話し合い、実行できる場であってほしいと思います
7	今後は市内全校のcs で問題や必要なことを協議する場が必要だと思う。問題意識はかなり重なると思う（教員不足、ボランティアの人材確保など）。市内cs の問題意識を教育委員会や行政に伝え子供たちのための制度改革などに活かせたらと思う。
8	多様な子どもたちが安心して過ごせる場所が地域にいくつも出来たらいいと思う。子供たちにとって先生でもない、親でもない、頼れる第三の大人が地域にいてくれるとありがたいと思う。
9	生徒たちが安心安全によりよい学校生活を送れるようにという気持ちで委員をうけたが、本当に生徒や先生が困っていること、必要なことについての協議ができていないように思う。前提として学校からの特にマイナス面の情報共有がなく、学校で起きている問題がみえない。
10	学校内における第三者機関としての関わり方、フェアな意見と考え方、屈託のない議論と広い視野で。
11	東京という土地柄もあり この地域に親族もいなくて心細いなと感じるご家庭も多いかと思います。そんな方々にもここは安心して過ごせる良い地域だと心から思ってもらえる事を望みます。その為に必要なことは強い横のつながりではないでしょうか。学校・地域・PTA が互いを思いやる活動を続け みんなの困ったに寄り添える活動の継続が出来れば つながりがは強くなるのではと考えます。そして、次の世代が自主的にこの地域の為に何か力になりたいと思える様になっていたら素敵ですね。
12	今まで学校というのは、校長先生や先生方の考え、方針が絶対という感じがありましたが、地域の方が入ること、学校そのもの自体が柔らかく、穏やかな雰囲気になると思います。また子供たちも、自分の親や知り合いが学校なことに関わってくることで、地域や学校に対しても更に愛着がわくのではないかと思います。

13	そもそもコミュニティ・スクールとは？がわからなさすぎるから熱を可視化と言われても、ピンとこないし、何も知らないものを知ろうとすることはできないので、知ろうとするモチベーションもわかない。
14	PTAの組織力が弱まっているため、保護者も巻き込んだ地域交流を展開できる仕組み作りに期待しています
15	学校役員には、無理やりやらされたり文句ばかりが出るような話ばかりで正直拒否反応がありました。しかし過度な制約などもなく自由に手伝えるところは協力して子供達のために行動するという保護者コーディネーターの考え方に共感して嬉しい気持ちになりました。下の子どもがいるためなかなか戦力になるような動きはまだできてませんが、微力でもお手伝いをしていきたいと思っています。
16	PTAはほぼ全員くじ引きでやる気がないので、そんなPTAのやる気を促す起爆剤になればよい。PTAより広い視野で物事を進められる組織でありたい。
17	保護者、地域と学校の関わりは意義深く重要な事だと思います。また、すべての保護者がコミュニティ・スクールへの関心を深めるためには努力が欠かせないと思います。
18	学校での勉強（座学）では得られない、子どもが色々な経験の中で気づき、学び、成長する手助けするための仕組みとなれたら良いのかなと思います。
19	まずはコミュニティスクールに関する情報を得る
20	学校運営を学校だけに閉じないよう、風通しの良さから実現していきたい
21	コミュニティスクールの説明をもっときちんとした方が良いと思います！
22	地域との連携を軸に子どもたちが健全に成長をできるように共育していきたいと
23	最初から、関わった時はその必要性に疑問ばかりでしたが、会を重ねていくうちに、所属の違う人達が、学校、生徒達の為に色々な議論、情報交換ができ、その事がまた、それぞれに広がっていったら、何のためにコミュニティスクールがあるのかがわかるのかなと思います。まだ道途中で確信は持てませんが、話し合う場があるのが大事だと思います。
24	発足してまだ日が短いですが、PTAとしても一保護者としても存在を身近に感じません。いつの日か、共鳴・協働できる日を心待ちにしています。
25	純粋に子どもたちのためになるかと思いPTA役員になりましたが、任意制にもなりルール改定もままならないのに、ちゃんとしようとすると、前とは違う・厳しい、という声が出てきたり、役員同士の重箱の隅のつつき合いに時間を費やして本来の子どもたちのために、を実施できていません。いまは各学校ごとに規約がありますが、ある一定のルールを決めた時に、上記のようなことが起こらないのかなと思ったりしています。
26	保護者と学校以外に子どもに意識を向け共に育てようという意識をもつ方を増やすことが未来を開くと考えます。
27	まだ立ち上がったばかりで、自分にどのような貢献が出来るのか手探りの状態ですが、少しずつでも良い方向に向かうようがんばります
28	未来を創る！それに携われることを喜びとして、地域に、そして児童・生徒に、学校に関わるみなさんに伝え対話したいと思います。
29	たくさんの方々のお話や活動内容を参考にし、今後の活動に活かしていきたい。
30	コミュニティスクールは共生社会の在り方を示せると思います。学校という教育の場で、社会と未来をつくる子どもたちを、多様な大人が協力して大切に育てていきたいです
31	地域と学校が協力することによって、昨今離れがちな保護者の意識が少しでも子どもたちを学校と地域と一緒に成長させることに向き、活気ある地域になればいいと思う。
32	まだ今年、はじまったばかりで少しずつ保護者の参加が増えてきている段階かと思っています。まだ活動自体、把握していない保護者も多数います。たくさんの方々に学校の現状や協力の必要性を知ってほしい。また、コミュニティ・スクールの活動を通して、保護者が学校生活に関わること、そこから委員会活動やPTA本部にも目を向けるきっかけとなり、より大きな人の輪が広がっていくとよいと思います。
33	色々お話を聞かせていただき勉強させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
34	意欲のある地域の方々や保護者などを交えて、より多くの方が参加できるようになると良いです。
35	関わりがないのでわかりません。
36	「子ども達にとって、より豊かで多様な学びの機会が生まれること」に最大の期待をかけます。 ・多様な大人との出会い：地域の専門的な知恵や人生経験を持つ方々が学校運営に加わることで、子どもたちが多角的な視点や、社会のリアリティに触れる機会が増えること。 ・個別最適な学びの実現：教員だけでは手が回らない部分（学習支援、部活動支援など）に地域の方の力が加

	<p>わることで、すべての子どもがよりきめ細かくサポートされ、個性を伸ばせる教育が実現すること。</p> <p>2. 【安心感】への期待（地域との連携が生む価値）</p> <p>「子どもたちが地域全体に見守られ、安心できる環境が持続すること」を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な安全・安心： PTAの活動だけでは限界がある登下校の見守りや、防災・防犯体制について、コミュニティ・スクールが地域全体を巻き込んだ継続的な仕組みを構築してくれること。</li> <li>・ 保護者の安心感： コミュニティ・スクールを通して、学校の教育方針や課題が地域に可視化されることで、保護者が「地域の中で子どもが育てられている」という安心感を得られること。</li> </ul> <p>3. 【PTAと学校の連携】への信頼（役割分担と協働）</p> <p>「PTAとコミュニティ・スクールが、それぞれの役割を尊重し、学校を支える両輪となること」を強く信頼しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役割の明確化： PTAが担う「保護者同士の連携強化」や「学校活動のサポート」と、コミュニティ・スクールが担う「学校運営への提言と地域との協働」という、それぞれの強みを活かした連携が図られること。</li> <li>・ 教職員の負担軽減： コミュニティ・スクールの活動によって、先生方が教育の本質に集中できる環境が整い、結果として学校の教育の質が向上すること。</li> </ul>
37	意気込みはありません。今後、自分に何ができるかもわかりませんが、今まで通り、これからも、学校（生徒と先生）と地域、そして保護者に寄り添い、パイプ役となり、一つでも多くの方からの『良かった』『ありがとう』が聞けたらと思っています。
38	開かれた学校は、子どもだけでなく、保護者や地域にとっても良いことだと思います。私は地域の間人なので、必要とされることは嬉しく、いつでも声をかけてもらえれば協力したいと考えています
39	次年度以降、より充実した取組となるよう努めていきたい。
40	もっと多くの方が認知しやすく気軽に参加しやすい情報発信を検討するのはどうでしょう
41	学校周辺の各組織をCSにてまとめ上げるのは良い試みと思う。どのように生かすかは模索中
42	地域の大人たちが子どもたちの成長に関わり、学校運営に意見や知恵を寄せることで、学校がより「地域の学校」となる。子どもたちは地域の中で多くの大人に見守られ、学び、育つ。大人もまた子どもたちの姿から多くを学び、地域のつながりが深まっています。この双方向の関わりこそが、これからの時代に求められる教育のあり方ではないでしょうか。一人ひとりの子どもが、自分の地域を誇りに思えるように。そして、地域の人々が「自分たちの学校」を支え、未来をともにつくる喜びを感じられるように。私はこの制度のもとで、地域と学校の絆をさらに強くしていけるのではないかと考えています。
43	多様な枠がどんどん広がっている現在の子ども達を、多様な視点でいかに捉えるか。子ども達の健全な成長を、学校や各家庭だけに任せるのではなく、多くの目で見守り一緒に育てていけるようにといつも考えています。
44	調布在住40年です。自分が育ち、住み続けてきたわが町調布において、自分も子育てをし、また教育環境が変化してきた様子をたくさんの近隣の方々と共に共有してきたつもりです。これからは、未来の調布を考えていく側として何かできたらと思っています。今年はいじめて通学中の中学校のPTAのお手伝いを少ししているという程度のため、コミュニティスクールについてはまだ知らないことばかりです。本アンケートにはほとんどコメントが書けず心苦しいのですが、新しい調布のためにこれから色々知りたいと思いますのでよろしくお願い致します。
45	今と未来の教育のために必要で価値的なくみ、組織だと思っています。また子供がお世話になった学校に携われることに感謝と使命を感じています。10年後にはコミュニティスクールの存在と活動について、市民の誰もが知っていて、携わることが自慢できるような世の中になればいいなあと、フロンティア精神でやってみます。
46	子ども達の地域のふれあい
47	学校教職員の立場として、地域の方々と共に、未来を担う子どもたちを育てていきたいと考えています。省力化すべきところは省力化し、必要な部分には力を注いでいきたいと思っています。
48	私自身も、この地域の皆様に温かく育てていただきながら、二人の子供の子育てをしてこれました。感謝しています。少しでもご恩返しできたらと思い、楽しく関わらせて頂いております。
49	現状では目の前の活動を行うことで精一杯のため、コミュニティスクールにかかる自分の思いがあまり定まっていないというのが本音です。熱い思いが必要と思う一方で、持続可能なコミュニティスクールにしていくためには、あまり熱くなりすぎると多くの人と共有しにくくなるようにも思います。そのバランスについて皆さんと考えることができればありがたいです。

50	子どもの育ちは、家庭・学校だけではなく、地域で子どもを育てよう、みんなで見よう(誰かの責任だけではなく)という意識が大事だと思うので、我が子のように、地域の子どもの成長に伴走したいです。
51	コミュニティ・スクールに携わることで、人と人の繋がりに感謝し子どもたち、学校、地域との関わりを大切にしていきたいです。そして私自身も成長していきたいと思います。
52	人間同士の関わりが希薄になることにより、子供達が地域の人々と関わる機会も減っている。成長時にたくさんの人々と関わるのが心の成長に繋がると思うので、色々な行事を通して、子ども達の心の成長の一旦を担えれば良いと思う。
53	コミュニティスクールという言葉を知ったばかりで、よくわかっていないので、当日参加させて頂き勉強したいです
54	少子化・共働き・働き方改革の状況下で、未来ある子どもたちを学校の力だけではなく、地域の力を巻き込み、多様性のある教育を通し、より良く力強い子どもたちになれるような一助となればと思います。
55	正直、まだよくわからない。
56	まだまだ始まったばかりで、学校もCS委員も手探りで進めているのが現状ではないかと思っています。学校が地域とともにあることを大事にしながら、学校ができること、保護者ができること、地域ができることをそれぞれが理解し、三者の相互効果で、子ども達に素敵な時間が提供できるといいなあと考えます。その結果として、子ども達が大人になった時、自分の学校や地域に何か関わってくれることができたらすごいですね。
57	コミュニティ・スクールを通じて、地域と学校が一体となり、子どもたちが安心して学び、この先の幸せにつながる力を育める環境をつくりたいと考えています。子どもたちの未来をみなで考え、共に成長していけるような場となることを願っています。
58	よくわからない。
59	両親共働きの家庭が増えた事によりPTAが停滞するなか、保護者だけではなく、地域の力を借りて、子どもたちの学びや成長を助ける力になればよいと思う。
60	その地域の実態に即した教育の重点を見定め進めていくパートナー
61	まだよく分かっていないので、今のところ特にありません。お忙しい中、ご準備ありがとうございます。お疲れさまです。
62	より偏りのない、今までの地域活動とは違った、色々な人の意見や声を通る、意義のある活動ができたら良いと思う
63	コミュニティスクールについてももう少し知る機会があるといいと思います。
64	子どもたちファースト
65	核家族が多い現代の、子供も親も地域の方々と触れ合い見守りあっていきたい。
66	特にありません。
67	一部の「声の大きな人」の意見に左右される事なくメンバーで「協議」できる事や、メンバーそれぞれを尊敬しながら、アサーティブに活動できる事が大切だと思います。
68	学校の理念や教育活動の意義を共有し、地域の対話の仲間を増やします
69	まだあまりコミュニティスクールについて、実感として理解できておりません。今後の活動を見聞きする中で、コミュニティスクールの大切さや、その価値の広げ方を考えることができればと思います。
70	まだ何も協力していません
71	学校、地域、保護者が、子どもを中心としてとりこぼすことなくあたたかく見守れる関係性であってほしい。
72	すみません、よくわかりません。
73	地域の中の児童、生徒を育みたい
74	よくわかりません、当日勉強します
75	ありがたみですが1点のみ。学校は笑顔であふれる場所となってほしい。
76	地域全体の見守り
77	持続可能な学校経営を共に推進したいです。よろしくお願いします。
78	特になし
79	学校だけでなく、地域全体で子どもたちの成長を支える仕組みにしたいです。先生・保護者・地域が対話を重ねながら、それぞれの強みを活かして子どもたちの「生きる力」を育てていけることを願っています。
80	役割分担の明確化。学校側が気を使わずにコミュニティスクールに頼れる関係性(コミュニティスクールで議題に出さずにやめてしまう活動がないこと)。
81	どんな子どもでも、楽しく、安心して過ごせる場になることを願います。

82	地域、PTA、学校協働本部がともに、子どもたちのことを一番に考え、子どもたちが今しかできない体験や将来に希望を持てるような経験をさせること。子どもたちが地域に愛着を持てるように持続可能な学校づくりを教員と一緒にする大切な役割がコミュニティ・スクールであると考えている。
83	初めてPTAに携わり、地域の方々の支えがあり子どもたちの成長に繋がっていることを実感いたしました。地域の方々、子どもたちが支え合い、安心して外を歩けるような環境を保っていきたいです。
84	子どもたちにとって良い環境が広がればと思います
85	本校では、委員のそれぞれが、学校の考えを尊重し、学校の応援団として、一致団結して物事に取り組んでいる。また、学校も委員の意見を大切に、学校の取り組みを詳細に委員に伝え、悩みや困り事についても隠さず相談してくれている。学校、委員お互いの信頼関係が十分に発揮されており、この状態を継続させていきたい。また、学校、保護者、地域がバランスよく関わることで、学校、保護者、地域それぞれの役割についても常に認識できている。学校は子どもに対する教育を提供する場であり、個別最適な学びの実現するために、多忙な教員の自己研鑽や子どもと向き合う時間の確保が重要であることを十分に認識し、その時間を不用意に奪わぬよう、何でも学校に求める風潮を抑制していく役割を果たしたい。一方で、保護者や地域が学校に求めていることを集約・整理して学校に伝えるハブ的な役割を果たすことも重要であると認識している。
86	コミュニティスクールは共生社会の在り方を示せると思います。学校という教育の場で、社会と未来をつくる子どもたちを、多様な大人が協力して大切に育てていきたいです
87	それぞれの負担が少なくできたら良いと思いますの
88	学校に要求をする場ではなく、学校の現状を理解して認める場とすることが重要。それにより学校の先生方との信頼関係を築き、地域と学校の交流がより円滑に進むことを期待する。
89	各校での課題や良かった点などを情報共有しながら、知恵を出し合い、より良い環境を整えられるよう活動していく必要があると感じます。
90	穏やかに過ごせる地域でありますように
91	転勤族で他の県から調布市に転校してきて、初めて学校のPTAに関わりました。保護者も子どもと同じ学校卒業など、地元で長く住まわれている方が多い事にとっても驚きました。地域の方も沢山の方が学校に関わってくださり、とても恵まれた環境だと思います。感じている事は学校のお手伝いやPTA活動もやって下さる方はとても熱心にやって下さる、関わらない方は全く関わらないの、二極化が激しいなど。保護者が気軽に学校と関われる機会が増えるにはどうしたら良いのか、良い例があれば知りたいです。
92	具体的に何をされているのか、周知してほしい。
93	コミュニティスクールが何を指すのか分からないままアンケートに答えてしまいました。PTAの仕事も、多くの保護者は何をしているのか知らない、知らされない、ということが気になっています。「PTA=めんどくさいことをやらされる」というイメージが強いため、PTAに就くことを避ける保護者は、PTAをやっている保護者に対して罪悪感みたいなものが多い気がします。だけどPTAの懇親会に参加した時、他の方も私と同じように、進んでPTAをやっていることが分かり、もっとPTA(コミュニティスクールなどの取り組みも)の内容をこんなことをやっているんだ、とアピールしてPTAをやっていない保護者たちはそれにただ感謝できるみたいな空気になったらいいな—とったりすることがあります。
94	子が小学生に上がり、親を介さない地域の人々との交流が増えてきました。学校、保護者、地域、それぞれが顔を合わせ話すこと、知り合うことが子の成長や安全の為に必要だということを感じております。これからも出来る範囲で地域活動に参加したいと思います。
95	コミュニティスクールは、あまり知られていないのが現状だと思います。これから必ず来るであろう自然災害時に、学校と地域の繋がりは、不可欠である。
96	学校も地域もそれぞれの強みを生かし、互いにできることを考えていく。
97	子供達が健やかに育ってくれることを願います
98	PTA役員になり、初めて活動を知りました。学校と地域を繋ぎ、支える場は大切だと思います。
99	まだ始まったばかりのこの取り組みが、より深い部分へと発展して行くことを願います。また自身の活動がその一助となれるように引き続き自分にできることを取り組んでいきたいです。
100	コミュニティスクールとは何か？具体的に何をしている所なのか？など子供でも理解できるアプローチがあると良いと思います。
101	多くの大人が温かく見守ってくれていると子どもたちに感じたもらえたら何よりです。
102	特にありません

103	保護者の負担は減ってきてはいますが、その分PTA役員やCSに関わる方々の負担は相変わらず多いのではないのでしょうか。それと、自分が勉強不足な点もありますが、CSについてわからない、知らないという人も多いのではないかと思います。
104	私が小学生の時（40年前）にCSはなかったが、地域の方々にたくさんのことを教えてもらい、たくさん遊んでもらい、見守ってもらい、学校と地域が双方向につながっていることを肌で感じていたように思います。今は学校にも地域にも、とても大きな恩を感じています。たくさんの愛情が地域から子どもたちに注がれていたように思います。今はその地域が高齢化、自治会が成り立たないような状況になっている。子どもの声に苦情が寄せられる、保護者への目もきつい時がある。そのような中でのCSは子どもを真ん中に置きつつも地域全体を豊かにする雄大な思考が求められると思います。取り組み方次第で、子どもを中心に豊かな地域が育まれる可能性を秘めているのがCSだと私は考えています。
105	学校・PTA・CS共に壁が有る様に思う。やはり、学校に対しては意見遠慮してしまう事もある。まずは関わり合う人達が交流を深め、皆が平等な立場で話し合いが出来る環境を作る事が第一歩だと思う。
106	せんせいだけでなぬ、地域の方々が教育に携わることで、子供たちが地域の人と関わりを持ち、多様な教育の機会を持てることはとても良いと思います。
107	大仰なやり方は不必要だとは思うが、保護者もがつバックグラウンドやコンテキストを生徒に還元する機会を小規模に持つ機会を増やしていくことはやりやすいかと思う。
108	コミュニティスクール自体をよく知らないので皆んなに知ってもらえるようにアピールしていく必要があると思う
109	かける思い！って重いですね
110	答えがなく感じていることは、情報の発信は容易であるが、一方的で確認したい時にしにくいものが大半である。発信することも大事だが、発信後の効果測定についても考慮するのが望ましいと思われる
111	地域、学校との対話をしながら、子どもたちの安心・安全・笑顔を守っていききたい。
112	本当に機能する学校運営協議会にするならば、それにふさわしい委員の人選がなされなければならない。なんとなく地域の重鎮や元PTA会長を選ぶというような形式的なケースが多いのではないだろうか。この制度により学校・家庭・地域が一層の連携・協働を図り、子どもたちの学びの充実や豊かな人間性の育成をつなげるのできる人を真剣に選ぶしくみ（校長の一存だけではない選出方式）が求められる。「人」が制度を動かすのであって、CSはあくまでも器である。
113	コミュニティ・スクール制度が始まって3年目になるが、委員同士の信頼関係があり、学校の取り組みに対する理解度も上がってきている。これから10年先を見据えて、この地域、この学校で育つ子どもたちをイメージしながら、「こうなるといいな」という未来図をつくり、実現させていくことができるCSでありたい。
114	ちいきで子供を育てることにつながって欲しい。
115	情報を発信してほしい。しているなら掴みやすいようにしてほしい。
116	子供たちのために、の精神で取り組み続けるべきと考えます。
117	子どもたちが安全に学べる、遊べる、暮らせる土台を保証することを地域の大人たちを中心に考えたい。また、子どもたちも地域の一員なんだと思ってもらえるような経験をさせてあげたい。大人も子どもも他人事ではなく、自分ごととして。
118	調布市は子ども中心に色々なイベントが充実していると思います。共働き家庭が多く、協力、参加について難しいご家庭もあると思いますが、参加の選択肢は減らさない方がよいと思うので、役割分担しながら行事計画、実施等は進め、子どもたちのために地域で見守る、育てる意識を高めていけるとよいと思います。
119	様々な立場の人間があらゆる角度から多様な考え方をもち教育に関わることで、子供たちの豊かな学びに繋がることを願います
120	初年度ということもあり、手探りな面も多くあると思います。その中で力を尽くして活動されている方々には感謝しかありません。どういう形でCSを活かしていくかは、来年以降の活動が肝だとも思います。役員として活動している分、多少は耳に入る情報は多い方だと思いますが、不透明な部分や実際どんなことをしているのか、実質が見えてこず自分には関係ないと思っている保護者の方も多いと感じます。まずは当事者でもあるという保護者への意識付けや、知ってもらふ努力を重ねる必要があるなと思いました。
121	調布市のコミュニティスクールは生まれたばかりなので、疑問及びもどかしいことばかりであろうが、先達の導入校を見ると、目指すところが見えてきます。焦らず一歩一歩、しかし目標は安易に妥協しないことが大事と常に言い聞かせています。熟議が学校運営協議会の醍醐味だと思いますが、違う意見の交換を諍いでいけな

	いことだとする日本文化・日本人の特性がひとつの障壁に思われます。意見が異なることに各自が慣れる（自分が否定されてることでないと認識すること。或いは違う意見の人を悪逆非道人としない等）が、コミュニティスクールを活発化する最初の目標かと思うこの頃です。
122	子供をど真ん中においた活動として、学校だけ、地域だけ、保護者だけでは出来ないことに取り組んで、良い影響を与えあえたら素敵だと思うのです。
123	教育に力を入れる取り組みは評価できるし応援したいが、正直 PTA 役員としてはその作業量だけで手一杯でその取り組みを応援できるほどの余裕はない。
124	地域の子どもは地域で育てる、学校も地域の一つという思いで働いています。
125	学校の特色に沿った VISION はつくれたと思います。教職員の方が異動になっても、この VISION をぶらさずに、子どもたちに寄り添う CS でありたいと思います。
126	学校における問題解決熟議はもちろん、子ども達が安心安全に学べる環境体制を整える。地域の方や保護者と共に情報交換を活発に行うことで、当事者意識を持ってサポートできる。学校を中心に地域が繋がれば、地域の活性化や町への感心向上、ボランティア活動への参加など意欲的に考えることができる。PTA の枠だけにとどまらず、大きな視野で地域ぐるみで学校をサポートできる体制を整えてほしい。
127	地域の中にある学校として、地域、学校、家庭が対話をしながら、子どもを真ん中にして協力していけるホームであっていきたいと思います。
128	学校の管理職だけではなく、教員が地域や保護者とフラットな立場でつながることができるようになるとよい。

## 本当に機能するコミュニティ・スクールに向けて —まとめ—

今回のアンケートを通して、保護者・地域・学校の多くの皆さまが、「子どもたちのためにできること」を真剣に考え、温かい思いを寄せてくださっていることが明らかになりました。地域の安心感、多様な大人との出会い、学びを支える環境づくり、そして PTA・地域・学校のよりよい協働への期待——いずれの回答にも、子どもたちの未来への願いが込められていました。

調布市では、コミュニティ・スクール制度が始まって間もない学校も多く、まだ模索の段階にあります。しかしアンケート結果からは、「学校をもっと開きたい」「地域とつながりたい」「PTA も役割を再定義しながら協働したい」という前向きな声が多数寄せられ、これからの可能性の大きさを感ずることができました。この調査結果が、各小中学校での熟議や対話の材料となり、学校・地域・保護者が同じ方向を向いて、一歩ずつ協働を進めていくきっかけとなることを願っています。

そして本年度、調布市公立学校 PTA 連合会は創立 70 周年を迎えました。節目の年に、コミュニティ・スクールをテーマに教育懇談会を開催できたことは、これからの 10 年をつくる第一歩です。子どもたちにとってよりよい教育環境をつくるために、私たち大人がつながり、支え合い、学び合う。その輪が調布全体へ広がっていく未来を思い描きながら、これからもともに歩んでいきたいと思ひます。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆さま、そして日頃から学校・地域のために尽力されているすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。「子どもたちのために」——その思いを胸に、これからも明るく力強く、前へ進んでいきましょう。

令和 7 年度教育懇談会実行委員会一同



# 教育懇談会 座席表

